

平成29年度（第61回）
岩手県教育研究発表会 特設分科会2（徳）

自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながら
よりよい生活を送ろうとする児童の育成
～問題解決的な学習を取り入れた道徳の時間の工夫を通して～

平成30年2月8日
岩泉町立二升石小学校
猪鼻 裕之

も く じ

1. 研究主題	1
2. 主題設定の理由	1
3. 目標	2
4. 研究の内容	2
5. めざす子ども像	3
6. 研究組織	3
7. 研究全体構想	4
8. 研究主題に迫るための手立て	5
9. 研究の経過	6
10. 研究の実際	
<<授業実践>>	
手立て1 「自分事」としてとらえるための手立て	8
手立て2 道徳的な問題について議論するための手立て	21
手立て3 自己を見つめこれからの生き方を考えるための手立て	24
<<連携体制>>	28
<<全体計画・別葉の作成>>	31
<<研究だよりの発行>>	34
11. 研究の成果と課題	36
資料	
1ー(1) 道徳教育全体計画	37
(2)～(7) 各学年の別葉	38
2ー(1)～(3) 校内研究だより(道徳科抜粋)	44
3 特別の教科 道徳(道徳科)の内容項目一覧	47

平成29年度「特別の教科 道徳」の研究

1. 研究主題

自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながら
よりよい生活を送ろうとする児童の育成
～問題解決的な学習を取り入れた道徳科の工夫を通して～

<めざす子ども像>

- 1 自分の考えをもち、主体的に活動する子ども
- 2 自他のよさを認め合い、はげまし合う子ども
- 3 どんな困難にも諦めず夢や希望を持つ子ども

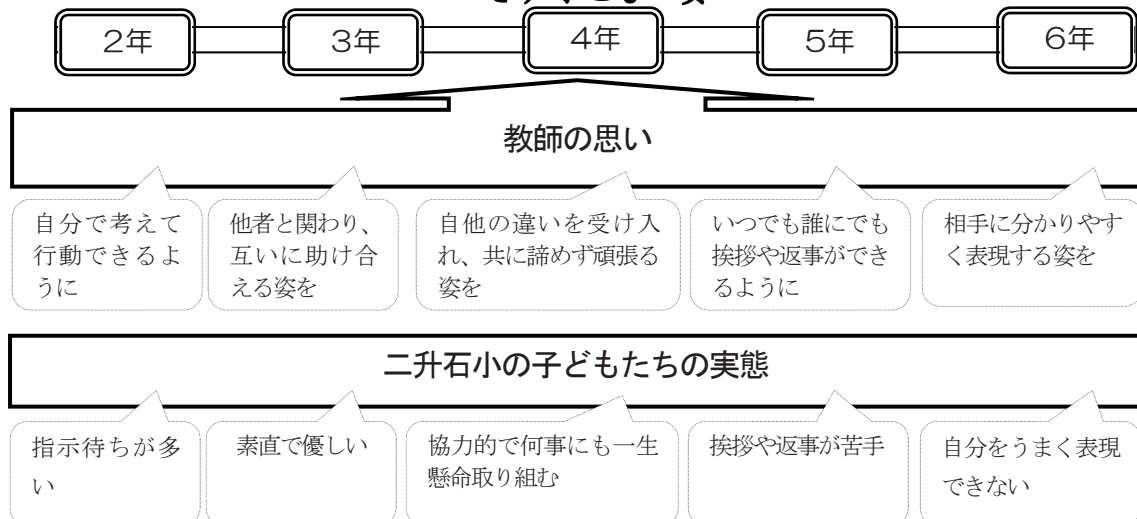
[授業実践] 道徳

- ・道徳的な問題を「自分事」としてとらえるための問題場面の構成の工夫
- ・道徳的な問題について議論する場の工夫
- ・道徳的価値の理解のもとに自己を見つめこれからの生き方を考えることができるようにするための指導の工夫

[連携体制]

- ・教師個々の道徳的授業力向上を目指した校内研究の取り組み
- ・地域・家庭等と連携した道徳教育の充実
- ・教育委員会による研究推進への指導と助言

めざす子どもの姿



2. 主題設定の理由

道徳教育は、教育の中核をなすものであり、学校における道徳教育は、「道徳の時間」のみならず、学校のあらゆる教育活動を通じて行われるものであると考える。これまでどの小学校においても「道徳の時間」では、児童が道徳的価値について様々な角度から考察し自分なりに考えを深める学習ができるように指導してきた。また、各教科等における道徳教育と関連を図るとともに、計画的・発展的な指導によって補充、深化、統合し、児童に道徳的価値の自覚や生き方について考えを深めさせ、道徳的実践力を育成してきた。しかし、道徳的価値について考えさせるあまり児童が本音ではなく、建て前や上辺だけを話す授業（良いことを言う授業）や登場人物の心情をひたすら読み取る授業（読む授業）などが散見された。その結果、良いことは良い、悪いことは悪いと分かっているにもかかわらず、実際に取る行動にずれが生じたり、いじめの問題が自分の身に降りかかった時に、実際にどう対応すればいいかを考えたりすることができない問題が生じてきている。

このような背景のもとに、形式的な道徳の授業ではなく、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が身に付くよう、また、道徳教育がより充実するように、領域であった「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」へと変更された。

これからは、「道徳の時間」に多かった道徳的価値を押し付けたり登場人物の心情の読み取りに終始したりする道徳ではなく、「特別の教科 道徳（以下、道徳科という）」を進めるにあたって、児童が様々な問題にぶつかったときに、解決するために、またよりよく生きるためにはどうすればいいか判断できるように、主に以

下の3つの指導方法が有効であると考えられている。

- I 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- II 問題解決的な学習
- III 道徳的行為に関する体験的な学習

これらは、独立して行われるだけではなく、それぞれの特長を踏まえて連動した指導方法も考えられる。そこで、本校では、「II 問題解決的な学習」の方法を中心に、児童が多面的・多角的に物事を考え、実際の場で行動できるように以下の3点をテーマに授業実践をしていく。

- ① 自分の生き方（生活）について振り返り、自分事として考えること
- ② 他者との関わり（交流）によって、多面的・多角的に考えること
- ③ 自己を見つめ、生き方（生活）をよりよくすること

よりよく生きるためには、まず、自分の生き方や生活を振り返ることから始まる。今までどう生きてきたか現状をしっかりと自分自身が把握するからこそ、これからどう生きていくかを考えることができる。その際に、道徳科の教材の読み取りから、実際に自分だったらどうするのか、生活を振り返って自分事として常に考えていくことがこれから重要になってくる。そのため、自分はどうするのか自分事として考える時間を設けていく。しかし、よりよく生きるためにどうすればいいか自分だけで考えるのは難しい。そこで、友達や家庭、学校、地域などにいる他者との関わりによって違う考えや生き方に触れることにより、多面的・多角的な考え方へ発展し、よりよい生き方についても考えることができるのではないかと考えた。

以上のことから、「自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながらよりよい生活を送ろうとする児童の育成～問題解決的な学習を取り入れた道徳科の工夫を通して～」と研究主題を設定し、児童が自ら考えたくなるような主体的・対話的な学びのある問題解決的な学習を取り入れた道徳、いわゆる「考え、議論する道徳」を中心にして児童に道徳性が養われるように研究を進めていく。

3. 目標

研究活動を通して、教員としての専門的な資質や能力を高め、本校の教育目標及び道徳教育の目標の具現化に努めると共に、「問題解決的な学習を通して、自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながらよりよい生活を送ろうとする児童の育成をするための工夫」について授業実践を通して明らかにする。

4. 研究の内容

・授業実践を中心に行う。

- 授業実践 —
 - <手立て1> 「自分事」としてとらえるための手立て
 - <手立て2> 道徳的な問題について議論するための手立て
 - <手立て3> 自己を見つめこれからの生き方を考えるための手立て
- 連携体制 —
 - <手立て4> 教師間、家庭、外部機関との連携

- 全体計画・別葉の作成 —
 - ・全体計画の見直し
 - ・「道徳科」だけでなく、年間を通して他教科との関連を意識した指導や手立てをとる。（授業構想）

- 校内研究だよりの発行 —
 - ・事前研究会：話し合った内容・授業の視点や手立ての工夫 など
 - ・研究授業後：研究協議や指導講評の内容 など

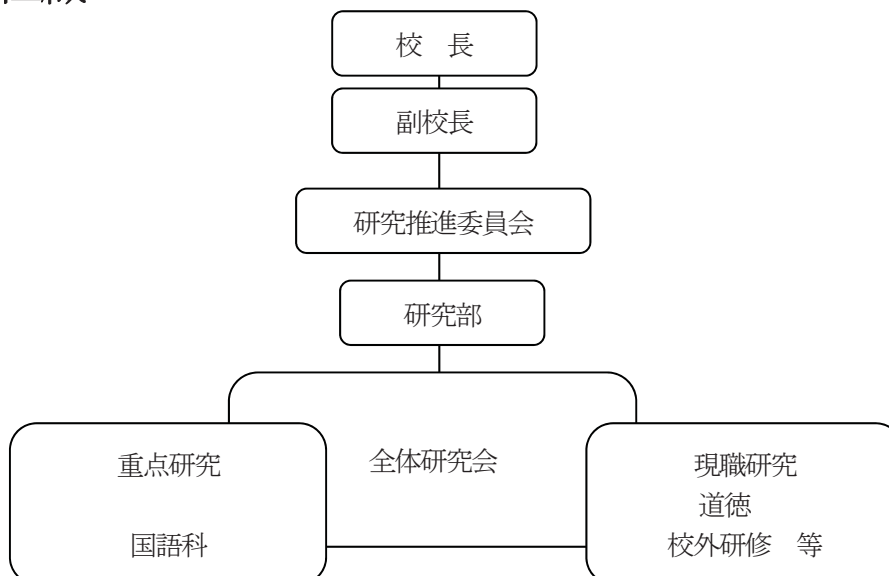
5. めざす子ども像

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 自分の考えをもち、主体的に活動する子ども |
| 2 | 自他のよさを認め合い、はげまし合う子ども |
| 3 | どんな困難にも諦めず夢や希望を持つ子ども |

全学年を通しての重点指導内容	A 希望と勇気、努力と強い意志	C<規則の尊重> (高) C<勤労、公共の精神> (中) (高) C<よりよい学校生活、集団生活の充実> (低) (高) C<伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度> (高) C<国際理解、国際親善> (高) 各学年の重点指導内容とする。
	B 礼儀	
	B 友情、信頼	
	D 生命の尊さ	
	D 自然愛護	

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<p>< A 希望と勇気、努力と強い意志 > 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと</p> <p>< B 礼儀 > 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること</p> <p>< B 友情、信頼 > 友達と仲よくし、助け合うこと</p> <p>< D 生命の尊さ > 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること</p> <p>< D 自然愛護 > 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること</p>	<p>< A 希望と勇気、努力と強い意志 > 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと</p> <p>< B 礼儀 > 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること</p> <p>< B 友情、信頼 > 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと</p> <p>< D 生命の尊さ > 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること</p> <p>< D 自然愛護 > 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること</p>	<p>< A 希望と勇気、努力と強い意志 > より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと</p> <p>< B 礼儀 > 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること</p> <p>< B 友情、信頼 > 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと</p> <p>< D 生命の尊さ > 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること</p> <p>< D 自然愛護 > 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること</p>

6. 研究組織



授業実践については、低・中・高学年を母体として研究を進める。

7. 研究全体構想

<学校教育目標>

- 自ら学び、自ら考え最後までやりぬく子ども
- 思いやりの心を持ち、助け合う子ども
- 進んで体をきたえ、困難なことものりこえる子ども

<めざす子ども像>

- 1 自分の考えをもち、主体的に活動する子ども
- 2 自他のよさを認め合い、はげまし合う子ども
- 3 どんな困難にも諦めず夢や希望を持つ子ども

< 研究主題 >

自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながら
よりよい生活を送ろうとする児童の育成
～問題解決的な学習を取り入れた道徳科の工夫を通して～

授業実践

<手立て1>

- ◎「自分事」としてとらえるための手立て
- ①事前アンケートの活用
- ②「自分事」としてとらえるための発問の工夫
- ③道徳的問題場面の提示の工夫
- ④ワークシートの工夫

<手立て2>

- ◎道徳的な問題について議論するための手立て
- ①自分の立場や考えの根拠を示す
- ②よりよい考えや生き方を見つけるための交流
(目的を明確にする)

<手立て3>

- ◎自己を見つめこれからの生き方を考えるための手立て
- ①ふりかえりの工夫
- ②事後アンケートによる児童の変容の見取り

連携体制

<手立て4>教師間、家庭、外部機関との連携

- ◎授業力向上に向けての取り組み
- ①授業の見合い及び協議 ②参考資料の収集・配付 ③先進校視察研修・伝講による共通理解
- ◎地域・家庭等と連携した道徳教育の充実
- ①授業参観や面談による道徳教育の実践 ②地域・家庭の人材の活用
- ◎教育委員会による研究推進への指導と助言
- ①外部講師を入れての研究協議 ②指導主事との意見交流

日々の

道徳教育

別葉

全体計画

8. 研究主題に迫るための手立て

《授業実践》

手立て1

「自分事」としてとらえるための手立て

(1) 事前アンケートの活用

①事前アンケートによる実態把握

(2) 「自分事」としてとらえるための発問の工夫

①教材の場面について自分の生活や経験と関わらせた発問 ②課題に迫るための主発問の設定

(3) 道徳的問題場面の提示の工夫

①課題設定や提示の工夫 ②教材の取り上げ方の工夫

(4) ワークシートの工夫

①自分の考えを整理できるワークシートの作成

手立て2

道徳的な問題について議論するための手立て

(1) 自分の立場や考えの根拠を示す

①グループや全体の場での考えの可視化

(2) よりよい考えや生き方を見つけるための交流（目的を明らかにする）

①多面的・多角的に考える交流の設定

手立て3

自己を見つめこれからの生き方を考えるための手立て

(1) ふりかえりの工夫

①ふりかえりの視点を明確にする。 ②課題に立ち返らせたふりかえり

③ワークシートのファイル収録による学習状況の把握（評価や指導に生かす）

(2) 事後アンケートによる児童の変容の見取り

①事前、事後アンケート（ふりかえり）による変容の見取り

《連携体制》

(1) 授業力向上に向けての取り組み

①授業の見合い及び協議 ②参考資料の収集・配付 ③先進校視察研修・伝講による共通理解

④研究だよりでの共通理解

(2) 地域・家庭等と連携した道徳教育の充実

①授業参観や面談による道徳教育の実践 ②地域・家庭の人材の活用

(3) 教育委員会による研究推進への指導と助言

①外部講師を入れての研究協議 ②指導主事との意見交流

《全体計画・別葉の作成》

(1) 道徳教育全体に関わっての取り組み

①道徳の教科化に向けた道徳教育全体計画の見直し

②年間を通しての他教科や領域などとの関連を意識した年間指導計画を別葉として作成し指導に生かす

《研究だよりの発行》

(1) 道徳教育や道徳科における共通理解

①事前研究会や事後研究会での内容などの共有

9. 研究の経過（道徳）

月	日	内容
3		研究推進委員会 「特別の教科 道徳」に向けての事業打ち合わせ
4	5	第1回校内研究会 「年間研究計画構想」
4	20	職員会議 「特別の教科 道徳とは何か」 参考教材配付
5	18	職員会議 「特別の教科 道徳」における大切にしたいポイント 参考教材配付
6	19	第2回校内研究会 「第3・4学年授業研究会 指導案検討」
6	20	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
6	21	第3・4学年授業参観及び参観者による指導改善協議
6	22	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
6	23	第3回校内研究会 「第2学年授業研究会 指導案検討」
6	27	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
6	28	第3・4学年授業参観及び参観者による指導改善協議
7	1～2	日本道徳教育学会（千葉県） 参加 副校長 菅野 信
7	4	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
7	5	第4回校内研究会 「第3・4学年授業研究会」 「朝がくると」 授業者 勝山 和香子 教諭 助言 中島 和孝 指導主事
7	7	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
7	12	第5回校内研究会 「第2学年授業研究会」 「たんじょう日」 授業者 伊藤 倫子 教諭 助言 中島 和孝 指導主事
7	14	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
7	27	平成29年度 教科等授業改善担当者研修会（特別の教科 道徳）参加 猪鼻 裕之 教諭
7	28	第6回校内研究会 「一学期の道徳のまとめについて」 「特別の教科 道徳に向けての別様の修正について」
夏期休業中		各学年の「特別の教科 道徳」に向けての別様の修正作業
8	26～ 27	第7回道徳教育研究大会（筑波大学附属小学校） 参加 伊藤 倫子 教諭 勝山 和香子 教諭
8	28～ 30	平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）【北海道・東北ブロック】 参加 猪鼻 裕之 教諭
9	5	岩手県道徳教育推進事業 第1回連絡協議会に向けての打ち合わせ
9	7	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
9	8	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
9	15	一関市立萩荘小学校公開研究会「道徳」 参加 猪鼻 裕之 教諭
9	19	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
9	20	第3・4学年授業参観及び参観者による指導改善協議
9	21	岩手県道徳教育推進事業 第1回連絡協議会 第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
9	26	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
9	28	授業参観日（道徳）

10	6	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
10	10	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
10	12	第3・4学年授業参観及び参観者による指導改善協議
10	18	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
10	20	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
10	30	道徳拡大大校内研究会（盛岡市立河北小学校第8回校内研究会） 参加 校長 石川 耕司 副校長 菅野 信 教諭 勝山 和香子 教諭 猪鼻 裕之 養護教諭 山崎 初美
11	2	第30回東北地区小学校道徳教育研究大会（弘前市立桔梗野小学校） 参加 猪鼻 裕之 教諭
11	8	第3・4学年授業参観及び参観者による指導改善協議
11	9	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議 第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
11	13	平成29年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修会に向けての事前授業及び協議
11	16	平成29年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修会に向けての協議 助言 中島 和孝 指導主事
11	17	第5・6学年授業参観及び参観者による指導改善協議
11	22	平成29年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修会（岩泉町立二升石小学校） 「夢」 授業者 猪鼻 裕之 教諭 助言 府中市立府中第三中学校 校長 森岡 耕平先生
11	28	第2学年授業参観及び参観者による指導改善協議
12	11	今年度研究の成果と課題についての協議
12	14	岩手県道徳教育推進事業 第2回連絡協議会に向けての打ち合わせ
12	15	今年度研究の成果と課題についての協議
12	25	岩手県道徳教育推進事業 第2回連絡協議会
12	25	岩手県教育研究発表会に向けての打ち合わせ
12	28	平成29年度 道徳教育啓発リーフレット作成について

10. 研究の実際

《授業実践》

手立て1 「自分事」としてとらえるための手立て

(1) 事前アンケートの活用

① 事前アンケートによる実態把握

児童が道徳的問題や道徳的価値についてどこまで理解しているか教師が把握できるように、また児童が自分の様子や行動（現状）を確認できるような項目を入れてアンケートを採った。アンケートから出てきた現状をもとに授業を構成するようにした。（アンケートをもとにした課題設定についてはP12～13参照）

【教材、児童の本音や弱みに関わるアンケート】

<2学年>

主題名：「命のありがたさ」D-（17）生命の尊さ

教材名：「たんじょうび」

Q1：命があって良かったとおもったことはありますか。

回答：はい。友達と遊んでいて楽しいとき。いつもそう思う。

Q2：命は大事だと思いますか。

回答：大事だと思う。大事だとは思わない。

アンケートを事前に採ることで、児童が考えている心の中がわかった。このアンケート結果から、早急な指導が必要と思われるが、道徳科でじっくりと考えられるように授業を組み立てた。

アンケートは、児童の考えを知る上で、重要な資料となった。

<3・4学年>

主題名：「よく考えて」A-（3）節度、節制

教材名：「ろばを売りに行く親子」

<p>道徳アンケート 名前（ ）</p> <p>1. アドバイスをもらったことはありますか。 (ある) ・ ない</p> <p>ほわとてをすすむ時にアドバイスを さんにしてもらいました。</p> <p>2. どんな人に、どんなアドバイスをされたことがありますか。</p> <p>3. アドバイスをされた時、どのように行動しますか。 () なやまず、その通りにする。 () 内容になっとくしたら、きく。 () その通りにする。</p> <p>4. どんな理由でそうしますか。</p> <p>その人がうまいから。</p>	<p>道徳アンケート 名前（ ）</p> <p>1. アドバイスをもらったことはありますか。 (ある) ・ ない</p> <p>せんぱいや同きょう生</p> <p>2. どんな人に、どんなアドバイスをされたことがありますか。</p> <p>3. アドバイスをされた時、どのように行動しますか。 () なやまず、その通りにする。 () 内容になっとくしたら、きく。 () その通りにする。</p> <p>4. どんな理由でそうしますか。</p> <p>もしこわってしまつたらアドバイスしてくれた人がもうアドバイスしてくれなくなるかもしれないから。</p>
---	---

価値の中でも本時の教材の価値に関わる質問に絞った。

結果から児童が普段から助言を受けている実態と、内容を考えずに言うことを聞いてしまっている児童が半数おり、そのことを疑問に思わずに過ごしていることがわかった。また、アドバイスの内容ではなく、相手の心情を慮るという児童もおり、本時の教材で何も考えずに相手の言うことを聞いてしまっている実態が分かった。

そこで、本時のはじめに「アドバイスを聞いてよかったことは」と質問することにより、内容を考えずに言うことを聞いて損してしまった親子の教材と重ね合わせることによって、授業前と授業後の意識の変容をはっきりさせる展開となった。

< 5・6 学年 >

頭では大切なことだと理解していても、出来ない負の経験を想起・確認できるような質問。

主題名：「努力し続けることで」 A- (5) 希望と勇気、努力と強い意志
 教材名：「夢」
 Q1：目標を立てて困難があってもくじけずに努力してやり抜くことは大切だと思いますか。
 回答：児童全員が大切だと回答。
 Q2：今までを振り返り、目標を立てて努力したが、最後までやり続けられなかったことはありますか。
 回答：跳び箱で何回やっても跳べなくてやる気がなくなったことがある。諦めてしまった。
 水泳や陸上記録会、ピアノのコンクールなどで、気持ちに負けて練習の成果を出せなかった。 など

【児童の実生活や道徳的価値理解に関わるアンケート】

< 2 学年 >

主題名：「みんなのものを大切に」 C- (10) 規則の尊重
 教材名：「きいろいベンチ」
 Q1：みんなが使う場所には、どんなところがありますか？
 回答：体育館、音楽室、ホール、公園。
 Q2：みんなが使う場所を使うとき、気をつけていることはありますか？
 回答：児童全員がいいえと回答。

「公園」「駅」など、公共の場所を使った経験がないため、このようなアンケート結果となった。
 児童の視野を広めさせるためにも、教師の方から公共の場所を教える必要があることがわかったアンケート。

< 5・6 学年 >

<p>主題名：「公德を守る心」 C- (12) 規則の尊重 教材名：「空きかんのゆくえ」</p> <table border="1"> <tr> <td>ごみがたくさん捨ててある場所に住みたいと思いますか。</td> <td>1 そう思う</td> <td>2 どちらかといえばそう思う</td> <td>3 どちらかといえばそう思わない</td> <td>4 そう思わない</td> </tr> <tr> <td>それはなぜですか。</td> <td colspan="4">ごみたくさんあると、きれいでなくて、気分が悪くなるから</td> </tr> <tr> <td>もしも、道路に自分が捨てたごみが捨ててあったら、あなたはどうしますか。(その理由も書いてください)</td> <td colspan="4">そのままする ごみは、うたないし、たれかか拾って、ちゃんと捨てるから</td> </tr> </table>	ごみがたくさん捨ててある場所に住みたいと思いますか。	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない	それはなぜですか。	ごみたくさんあると、きれいでなくて、気分が悪くなるから				もしも、道路に自分が捨てたごみが捨ててあったら、あなたはどうしますか。(その理由も書いてください)	そのままする ごみは、うたないし、たれかか拾って、ちゃんと捨てるから				<p>主題名：「男女が理解し合う心」 B- (10) 友情、信頼 教材名：「心のレシーブ」</p> <table border="1"> <tr> <td>友達と互いに信頼し、学び合っていて友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくことは大切だと思いますか。</td> <td>1 そう思う</td> <td>2 どちらかといえばそう思う</td> <td>3 どちらともいえない</td> <td>4 どちらかといえばそう思わない</td> <td>5 そう思わない</td> </tr> <tr> <td>それはなぜですか。</td> <td colspan="5">男の子と女の子は、でも互いに信頼し合うより仲良くなれそう。(壁も壊れる)</td> </tr> <tr> <td>男女関係無く、よい人間関係を築いていくためにはどうすればよいと思いますか。</td> <td colspan="5">気が合うから。</td> </tr> </table>	友達と互いに信頼し、学び合っていて友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくことは大切だと思いますか。	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 そう思わない	それはなぜですか。	男の子と女の子は、でも互いに信頼し合うより仲良くなれそう。(壁も壊れる)					男女関係無く、よい人間関係を築いていくためにはどうすればよいと思いますか。	気が合うから。				
ごみがたくさん捨ててある場所に住みたいと思いますか。	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない																														
それはなぜですか。	ごみたくさんあると、きれいでなくて、気分が悪くなるから																																	
もしも、道路に自分が捨てたごみが捨ててあったら、あなたはどうしますか。(その理由も書いてください)	そのままする ごみは、うたないし、たれかか拾って、ちゃんと捨てるから																																	
友達と互いに信頼し、学び合っていて友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくことは大切だと思いますか。	1 そう思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 そう思わない																													
それはなぜですか。	男の子と女の子は、でも互いに信頼し合うより仲良くなれそう。(壁も壊れる)																																	
男女関係無く、よい人間関係を築いていくためにはどうすればよいと思いますか。	気が合うから。																																	

実生活の場面を想像させ自分だったらどう行動しそうなのか把握するためのアンケート。

道徳的価値についてどこまで理解しているか把握するためのアンケート。これにより、どう行動して良いか分からないという価値理解の不十分さが把握できた。

(2)「自分事」としてとらえるための発問の工夫

① 教材の場面について自分の生活や経験と関わらせた発問

授業前段で「もし、自分だったらどうするか。」「主人公と同じように〇〇できるか、できないか。それはなぜか。」など自分が道徳的問題場面に出会ったらどうするか自分事として考えさせる発問を設定した。そうすることで、主発問により迫りやすく、また授業後段や授業後でこれからの生き方についてもしっかりと考えられるようにした。(手立て3とのつながり)

<2学年>

主題名：「勇気を持って」A—(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

教材名：「おれた ものさし」

T：もし、自分がのぼるくんだったらどうしますか？

C1：「先生のものさしを間違えて、折ってしまいました。ごめんなさい。」

C2：「先生ごめんなさい。ものさしを折ってしまいました。」

T：それはなぜですか？

C1：正直に言わないと、嫌な気持ちがずっと心に残るから。

C2：悪いことはちゃんと話して、謝らないといけないと思うから。

先生に謝ろうと
している場面。



役割演技を通して考えさせることで、より自分事として考えやすくなった。

<3・4学年>

主題名：「残しておこう」D—(19) 自然愛護

教材名：「じいちゃんが教えてくれたこと」

T：工事のために、川の流れが変わり、せきとめられたところには大きな水たまりが出来ています。その水たまりの中には、たくさんの魚が泳いでいます。みんなだったらどうしますか。

C1：家に大きな水そうを準備して家に魚をもって帰ります。

理由は魚が死んでしまったらかわいそうだからです。

C2：家に帰って、お母さんにどうしたらいいか聞いてみます。

理由は、子どもだけの力ではどうにもできないと思うからです。

C3：バケツですくって、川に全部返します。理由は、大変でも、魚が死ぬのは嫌だからです。

C4：見なかったふりをします。理由は、私1人では何もできないし、助けるのは大変だからです。

教材文を途中まで提示した後、結末を見せないで、自分だったらどうするかを考えさせたことにより、魚を戻すことは大変なことだということを自分事として捉えることができた。

<5・6学年>

「夢」A—(5) 希望と勇気、努力と強い意志

T：一生懸命努力してもプロ野球選手になれなかったことについて、自分だったら受け入れますか。受け入れられないですか。

C1：僕は受け入れられない気持ちが多い。たくさん練習したのに、合格しなかったから。

C2：今まで努力したのが無駄になったから。無駄になったと思うと僕は失望する。

C3：私は絶対に受け入れられない。高校まで困難があっても続けてきたのに、なれないから。

「空きかんのゆくえ」C—(12) 規則の尊重

T：道に落ちている空き缶があったら、あなたは どうしますか。

C1：拾ってもいいけど、できれば拾いたくない。

C2：拾った方がいいのは分かるけど、自分が捨てたわけじゃないし、やっぱり汚い。

C3：自分のだったら、しっかりと捨てるけど、人が飲んだ空き缶はちょっと・・・。

教材場面と自分を重ねさせることで、教材の読み取りではなく、実際に自分だったらどうするのか自分事として問題場面について考えさせるようにした。(建て前で話さない)

② 課題に迫るための主発問の設定

ア. 授業前段で道徳的問題場面について自分事として考えさせた上で、様々な角度から考えられるような開かれた発問を設定することで、自分なりの考えを導き出せるようにした。(Yes No 型・How 型や Why 型の使い分け)

< 2 学年 >

「おれた ものさし」 A— (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
主発問：「何度も悪いことをした友達がいたら、どうしますか？」
C 1：「悪いことをしたのだから、謝らなきゃダメだよ。」とはっきり伝える。
C 2：「人のせいにするのはいけないことだよ。」と怖いけど勇気を出して言う。

< 3・4 学年 >

「じいちゃんが教えてくれたこと」 D— (19) 自然愛護
主発問：魚をすくいながら、こう太はどんなことを考えたのでしょうか。
C 1：魚は泳ぐのが速いから、バケツに入れて逃がすのは大変だ。
C 2：逃がすのは大変だけど、でも放っておいたら魚が死んでしまうかもしれない。
C 3：魚がこのまま死んでしまったらかわいそうだから、がんばろう。
C 4：他にも手伝ってくれる人がいたらいいんだけどなあ。

< 5・6 学年 >

「夢」 A— (5) 希望と勇気、努力と強い意志
主発問：関係のない仕事についているのに、さわやかな表情をしているのはどうしてでしょう。

「遠足の子どもたち」 A— (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
主発問：なぜ、ルールを守る必要があるのですか。

「空きかんのゆくえ」 C— (12) 規則の尊重
主発問：気持ちよく過ごすために、みんなはどんなことができるだろう。

イ. 児童の心をゆさぶるような発問や価値の本質に迫るような発問を吟味した。

< 2 学年 >

「ともだちやもんな、ぼくら」 B— (9) 友情、信頼
主発問：ひでとしだけが怒られればいいんじゃないの？
C 1：それは、だめです。
C 2：わたしも、そう思います。
怒られるのは怖いけど、やっぱりひでとしだけのせいにはできないと、児童も葛藤していた。
T：それはなぜですか？
C 1：自分たちも悪いことをしたのだから、一緒に怒られなければならないと思います。
C 2：ひでとしだけが怒られるのは、かわいそうです。みんなで悪いことをしたのだから。

< 3・4 学年 >

「朝がくると」 B— (7) 感謝
主発問：あることが当たり前だと思っているものがなくなると、どうなるかな。
C 1：ごはんを作ってくれないと、おなかがすいて力が出なくなる。
C 2：洋服がないと、冬は寒くて大変だと思う。
C 3：水が出ないと、のどがかわく。
C 4：靴がないと、足が痛くて、走れなくなる。

< 5・6 学年 >

「星野君の二るい打」 C－（1 2）規則の尊重

主発問：きまりや規則は、状況によって守らなくてもいいのでしょうか。

(3) 道徳的問題場面の提示の工夫

① 課題設定や提示の工夫

課題設定については、児童が道徳的な諸価値について以下の4つのうちどの状態なのか事前アンケートにより把握した。そこから、**各学年の内容項目と関わらせて**課題を設定することで自分事として必要感のある（問題意識を醸成させる）授業を構成するようにした。

- ① 実現されていないことに起因する問題
- ② 理解が不十分または誤解していることから生じる問題
- ③ 理解はしているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
- ④ 複数の道徳的諸価値の間の対立から生じる問題

< 2 学年 >

「さるへいと立てふだ」 A－（2）正直、誠実

本時では、事前アンケートにより児童が③のような実態であった。「嘘はいけない」とわかっている、「嘘をついてしまう自分」について考える授業を行った。

T：嘘をつくとどんなことが起こりますか？

C 1：嘘をついても、誰かが見ているし、ごまかせないと思います。

C 2：独り占めしようと悪いことを考えると、自分に返ってくると思います。

T：では、「なぜ嘘をつくことがいけないこと」なのか考えていきましょう。

< 3・4 学年 >

「百羽のツル」 D－（2 0）感動、畏敬の念

この教材は、④のような複数の道徳的諸価値の対立から生じる問題の内容が含まれている。力尽きて落ちていく子どものツルを助けるか、仲間を無事に目的地に連れて行くことが大切かの判断を仲間のツルたちが問われる場面について考える授業を行った。

T：落ちていくツルを見て、みんなだったらどんなことを考えますか。

C 1：子どものツルを助けなければ。

C 2：子どもが落ちた、助けないと。

C 3：まだ、子どものツルを助けられるぞ、速くとばなくては。でも、力がついて自分たちも死んでしまいそうだ。どうしよう。

「夢」 A- (5) 希望と勇気、努力と強い意志

本時では、事前アンケートにより児童が③のような実態であった。そのため、導入場面で、努力することは大切だと分かっているが、できないでいる負の経験から学習課題へとつなげた。

事前アンケートから、児童が努力してやり抜いた出来事やその良さを確認、共有した後に・・・

T : では反対に、困難にくじけてしまって、最後までできなかったことはあるかな？

C 1 : 水泳大会で泳いでいる時に、息がしづらくなって、立ってしまった。

T : その時、どんな気持ちだった？

C 1 : もう自信がなくなった。

T : みんなは目標を立てて最後まで努力することは大切だと思ってるんだよね。

C : うん。(うなずく)

T : でも、できないことがあるって。努力することって本当に大切なのかなあ。だから、今日は、「**困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと**」について、みんなでもう一回考えていこう。

「心に通じた『どうぞ』のひとこと」 B- (7) 親切、思いやり

本時では、事前アンケートにより児童が②のような実態であった。そのため、導入場面で、相手のためにしたことがうまく伝わらず困ってしまった経験から学習課題へとつなげた。

T : 相手のためにしたことが、うまく相手に伝わらなかったことってあるかな？

C 1 : 掃除している時に、もっときれいにできる方法があったから、「こうしたほうがいいよ。」って教えてあげたら、相手に「一生懸命やっているのに。」と怒られてしまったことがある。

C 2 : 友達が急いでいるから、助けてあげようと思って先回りして手伝ったら、かえって困ってしまった。

T : みんな相手のために親切にしたことがかえって怒らせたり困らせたりしてしまったんだね。では、今日は、「**自分の思いがしっかりと相手に伝わるにはどうすればよいのか**」を考えていこう。

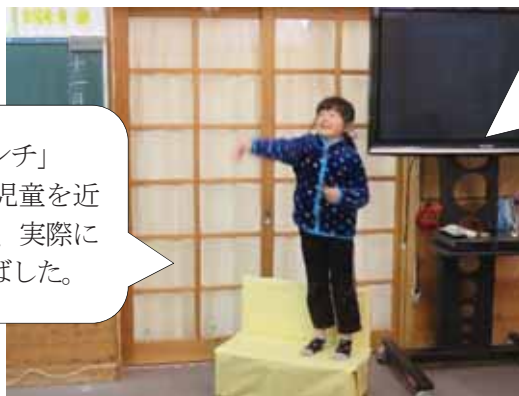
② 教材の取り上げ方の工夫

教材に応じて、場面を区切ったり道徳的問題場面だけを取り上げたりした。また、挿絵や紙板書、半具体物、デジタル機器などを使用し可視化させたり、役割演技を取り入れたりすることで、児童が道徳的問題場面について考えやすいように工夫した。

主題名：「みんなのものを大切に」 C- (10) 規則の尊重

教材名：「きいろいベンチ」

「きいろいベンチ」
より教材に児童を近づかせるため、実際に紙飛行機を飛ばした。



紙飛行機を飛ばすときに上履きを脱いだ児童。なぜ脱いだのか、授業の展開と関連づけることができた。

<3・4学年>

主題名：「尊敬と感謝の気持ちをもって」 B-（7） 感謝

教材名：「朝がくると」



教材文の一部を隠して提示することにより、そこに入る言葉、「ぼくがつくったのではない」に着目させ、「では、誰が作ったのだろう」という疑問を生む契機とした。

普段の児童の反応では、何度も同じ表現が出てくると、「何度も出てきてしつこいなあ」と逆に注目が薄れると思われたが、隠しておいたものを出すようにしたところ、一つ一つめくる度に注目して言葉の奥にある気持ちを考えるような時間が生まれた。
(教材との対話)

<5・6学年>

主題名：「努力し続けることで」 A-（5） 希望と勇気、努力と強い意志

教材名：「夢」



教材場面を区切って、発問することで、自己投影しやすく自分事として考えるようにした。紙板書により、児童の話を教師が聴く時間が多く保障できる。

また、挿絵を準備することで児童が教材文の内容を捉えやすくなり、登場人物の表情などをもとに主発問に迫ることもできた。

「心に通じた『どうぞ』のひとつこと」 B-（7） 親切、思いやり

授業後半で心のノートを使用した。友達を励ますために送ったメールが相手に誤解を与えてしまった場面。

児童にどうすればよかったのか考えさせた後に、もし自分だったらどう送ればしっかりと思いが伝わるのか考えさせた授業。

赤ペンで書き直したり、書き加えたりした。その後、なぜそうしたのかグループで話し合せて、多角的に捉えさせた。



(4) ワークシートの工夫

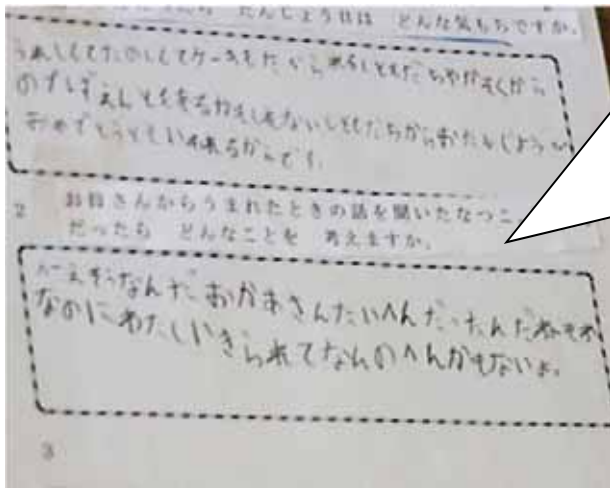
① 自分の考えを整理できるワークシートの作成

自己を見つめながら考えられるように、自分の考えの根拠（理由）となるものを書き起こし、可視化・共有化しやすくした。

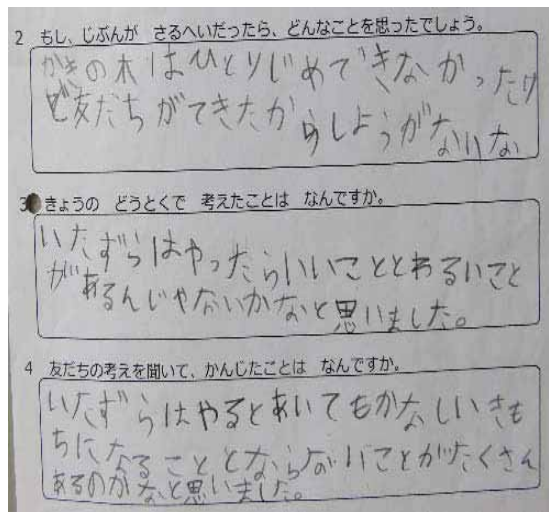
<2学年>

自分の考えを瞬時に整理して伝えるのが難しいため、必ずワークシートに記入してから話し合いの時間を設定した。授業を重ねる度に、自分の考えをしっかりと持ち、ワークシートに書かなくても話し合いができるようになってきた。

<ワークシート例>



発問を精選し、ワークシートに考えを記入。



<3・4学年>

自分だったらどうするか、ということを考えることが苦手な児童に対して、いくつかの例とその他の項目を作り、自分の考えに近いものを選ばせるように、ワークシートを構成し、授業を重ねていった。

はじめは自分の考えをもつことが難しかった児童も次第に、理由をつけながら書くことができるようになってきた。また、話し合いを通して、他の人の考えに触れながら空欄を埋める児童も見られた。

<ワークシート例>

〇自分だったらどうしますか。		
	理由はなんですか	その後どうなりますか
おいていく	家に持ちかえり、ゴミをすてるのがたいへんだから。	また川原しごぎがふえる。
もってかえる	川原におかないで、かんぱんをたてた人がこまらなから。	家しごぎがふえるけど、川原しごぎはふえない。
そのほか (こまらなばいにおく)	ゴミすて場におけば、ゴミがふえることはないから。	川原の戸先しごぎがふえない。

〇今日の授業でどんなことを考えましたか。また、これからどうしたいですか。

複数の例を出し、自分の考えを記入。

<5・6学年>

ワークシートはあくまで考えを整理するためや主発問や課題についてどう考えたのかなどを中心に書くこととし、児童に話し合いの時間を多く保障するようにした。

ワークシートに盛り込む項目例（基本）

- 主発問に迫るための発問（教材によっては、話し合いのみ）
- 主発問
- 課題についての自分の考え（話し合いを通して・・・）
- ふりかえり+心のものさし（自己評価）

〈ワークシート例〉

The image shows a student's handwritten work on a worksheet. The text is written in Japanese. There are several callout boxes with arrows pointing to specific parts of the work:

- ふりかえり** (Reflection): Points to the top left section where the student discusses littering habits.
- 課題についての自分の考え** (My thoughts on the task): Points to the middle section where the student discusses rules for public places.
- 主発問に迫るための発問** (Questions leading to the main question): Points to the top right section where the student asks questions about littering.
- 心のものさしとその理由** (Heart's scale and its reasons): Points to the bottom section where the student expresses their feelings and reasons.

The handwritten text includes:

- Top right: 「道に落ちていた空き缶があったら...」 (If there is an empty can lying on the road...)
- Middle: 「みんなが利用する場所を気持ちよく使うためには...」 (To use places everyone uses comfortably...)
- Bottom: 「前はゴミが落ちていたところも掃除機で吸い取ってたりと学習していましたが、今はみんなが気持ちよく使うためにどうすればいいかも考えたいです。」 (Before, I learned to use vacuum cleaners to pick up trash, but now I want to think about how to use it comfortably for everyone.)

主発問を「気持ちよく過ごすために、みんなはどんなことができるだろう。」と設定し、自分たちで話し合いながら、課題に迫るようにした。

「まずは、絶対に捨てないこと」「捨わないけど、端にはよせてみる」「学校でもう一度クリーン作戦をしてみる」など自分なりの考えを出していた。

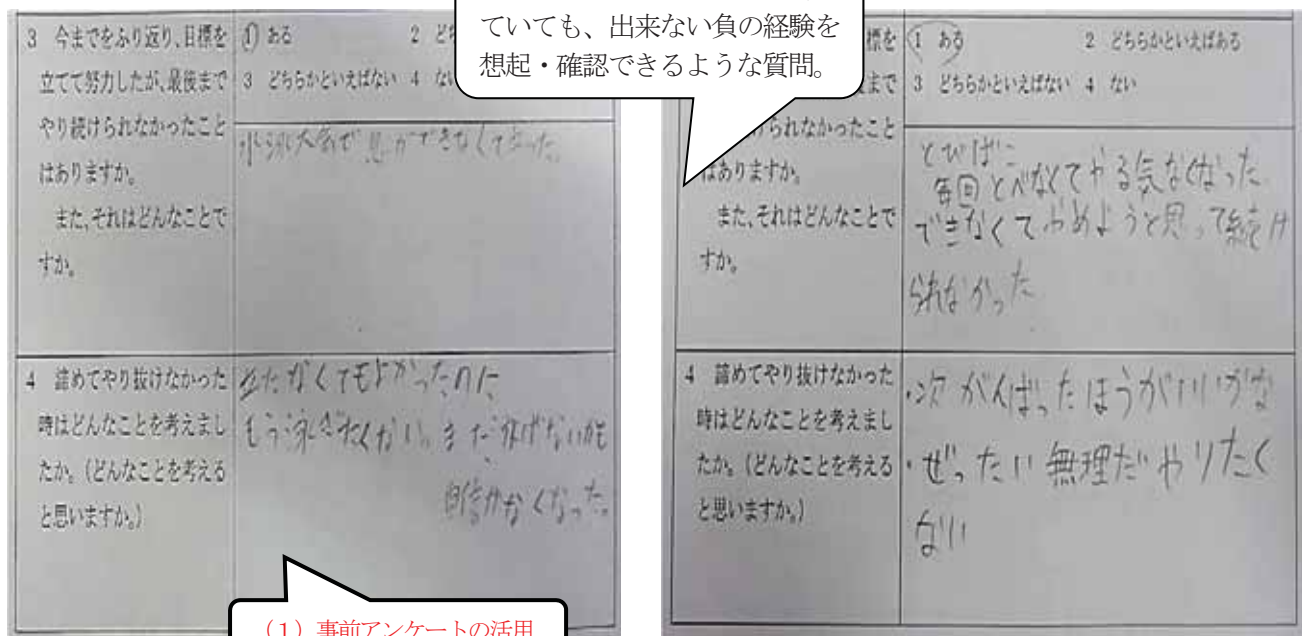
手立て1 「自分事」としてとらえるための手立て(1)～(4)を盛り込んだ学習指導案例

<5・6学年>

主題名：「努力し続けることで」A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志 教材名：「夢」

(1) ねらい より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜こうとする態度を養う。

(2) 実際の事前アンケートより



(1) 事前アンケートの活用

(3) 展開

	学習活動と主な発問 (○)	予想される児童の反応	指導上の留意点
気 付 く 5 分	1 事前アンケート調査を基に、目標を立てて努力したが、最後までやり続けられなかったことやその時の気持ちについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 私は、陸上記録会で怖くなって結果を出すことができなかった。 ぼくは、跳び箱の練習を一生懸命頑張った。それでも、全然跳べなくてやる気をなくして、もうやりたくないと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートを採ること、内容項目にせまりやすくする。 自分自身の経験（自分の弱み）をもとに考えを出せるようにする。
	<p>困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことについて考えよう。</p>	<p>(3)-① 課題設定や提示の工夫</p>	<p>(1)-① 教材や児童の本音や弱みに関わるアンケート</p>
つ か む 5 分	2 資料を読み、資料について話し合い、価値の理解を図る。 ○主人公はなぜいくつもの困難にぶつかっても諦めずに努力し続けたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 小さい時からの夢だからだと思う。だって、諦めたら、夢は叶わないよ。 私も夢を叶えるために頑張るかもしれない。頑張れば、夢が近づくとと思うから。 ぼくだったら、諦めるかもしれない。でも、主人公は絶対に夢を叶えたいと思っているから努力したんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が問題場面を捉えやすくなるために資料を分割して提示する。 自分事として捉えるために、「自分だったらどうか」聞くようにする。
	<p>(2)-① 教材の場面について自分の生活や経験と関わらせた発問</p>		<p>(3)-② 教材の取り上げ方の工夫</p>

<p>深める 20分</p>	<p>3 道徳的な価値に迫るための話し合いをする。</p> <p>○一生懸命努力してもプロ野球選手になれなかったことについて、自分だったら受け入れますか。受け入れられないですか。</p> <div data-bbox="240 421 632 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(2)ー① 教材の場面について自分の生活や経験と関わらせた発問</p> </div> <p>◎関係のない仕事についているのに、さわやかな表情をしているのはどうしてでしょう。</p> <div data-bbox="240 1016 632 1106" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(2)ー② ア 課題に迫るための主発問の設定</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくだったら、納得できないから。諦めきれないかもしれない。だって、今までたくさん努力してきたし、もっと頑張ればよかったと思うかも。 ・私は、その結果を受け入れるよ。なぜなら、結果はダメだったけど、これまでの努力は無駄にはならないと思う。これからは生きるはずだ。 ・今までの努力が無駄になったら、ぼくは嫌だな。水泳大会の時に、結果が出なくてしばらく落ち込んでいたから、ぼくだったらずっと落ち込むと思う。 ・夢は叶わなかったけれど、その中で、いろいろなことを得たから、元気になっているのかな。 ・やりきった満足感があるかもね。ぼくも同じような経験があるな。 ・今までの苦労は無駄ではなく、自分を成長させてきたことに気付いたから、さわやかなんじゃないかな。 ・違う目標に向かって、また努力しているからじゃないの。 ・今までずっと野球のために努力してきたから、野球に関する仕事をしているかもしれないね。 ・もしも、自分だったらその後もモヤモヤしてしまうかもしれない。落ち込むかも。でも、頑張ってきた主人公のことだから、きっとまた努力しているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として捉えるために、「自分だったらどうか」聞くようにする。 ・受け入れるか受け入れないかだけでなく、その理由についても聞くようにする。 ・困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く良さや大切さに気付くように、揺さぶったり切り返したりする。(結果は駄目だったけど、その中で得たものはあるのかな) <div data-bbox="1139 703 1497 792" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(2)ー② イ 児童の心を揺さぶるような発問</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命努力してやり抜いても結果が出なかった主人公の後の姿を考えさせることで、努力することで結果以外にも得たものがいくつもあることに気付かせたい。 ・想像の話にならないように、しっかりと根拠をもとに話し合わせるようにする。(資料や自分の経験から)
<p>広げる 10分</p>	<p>○困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことについてどう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やり抜くことで、いいことがあるね。 ・努力することで、自分自身を高めることができるから。 ・努力してやり抜くことで、諦めない心が身に付く。これは、これからの生活にも生かせるよ。 ・頑張ったら新しい目標ができて、もっと成長することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つかむ・深める段階」で考えたことから、本時の課題に迫れるようにする。 ・事前アンケートと同じ発問をすることで、児童の変容が見られるようにする。

ま と め る 5 分	4. 道徳的な価値理解をもとに自己を見つめる。 ①道徳で考えたこと ②友達の考えで印象に残ったこと ③これからについて	・壁にぶつかってもそれを乗り越えることで、自分自身が成長できることがわかった。Aさんが言った「努力は無駄じゃない」という言葉はたしかにそうだなと思った。これからは、いろいろと困難があってもできる限りの力でやってみようと思う。 ・努力することで、いろいろな良さがあることが分かった。それでも、ぼくは辛かったら諦めてしまうかもしれないけど、できるだけことはやっていきたい。	・ふりかえりの観点を示し、自分の考えを表出する手立てとする。 【評価】 より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜こうとすることの良さ気付くことができたか。
----------------------------	--	---	---

〈実際のワークシート〉

(4) ワークシートの工夫

困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことについて考えよう。

◎関係のない仕事についているのに、さわやかな表情をしているのはどうしてか。

野球で自信がったから
次の目標ができてから

主発問

課題についての自分の考え

☆困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことについてあなたはどう思いましたか。

困難があってもやり抜くことでこれからどんなことがあってもくじけずにならと考えたまた、毎失敗したとして、どのようになら良くなるか考える。きっかけを一つあると思おう。

ふりかえり

ハふりかえり

このワークシートでつらいことがあっても、もう大丈夫に努力すれば何が役立つことが残さずと覚えました。先生の考えがとても私の心で響きました。

ふりかえり、努力する大切さをあすれずに生活したい。

心のもさしとその理由

努力をしたら結果ありではなく、でも努力を次へ行くことはとても大事だと思ったので8にしました。

ぼくは毎朝早起きすることで人より早く起きたい。次の目標は、勉強することです。

(1) 事前アンケートの活用

- 児童一人ひとりがどのような状況なのか把握できたことで、**実態に応じた学習課題や主発問を設定し自分事として考えさせる**ことができた。
- 児童の実態が把握できたことで、すぐに学習課題につなげられ、**道徳的問題について考える時間が確保**できた。また、児童が**今の自分の状況を振り返る**ことで、本時はどんな問題について考えればよいかを明確にさせることができた。(必要感)
- 毎時間アンケートを作成したり、調査したりする**時間の確保が難しい**。また、内容をどのようにしたら良いか迷うことがあった。
- 児童の実態について把握して学習課題を設定したが、教材によっては、教材から学習課題につなげる方法の**ほうが効果的な場合もあった**。(授業がワンパターンにならないようにする)

(2) 「自分事」としてとらえるための発問の工夫

- 教材場面と自分を重ねることで、道徳的場面について**実際の行動をもとに自分ならどうするのか考える**ことができた。また、児童の考えに揺さぶりを入れることで、**より深く、じっくりと考えさせる**ことができた。主発問で揺さぶりをかけると、自分の考えに確信を持つことが多かった。
- 様々な考えが出てくるような発問の設定により、**物事について多面的・多角的に考えられる**ようになってきた。
- 役割演技をすることで自分の考えと向き合い、なぜそのような行動をとるのか**道徳的心情だけでなく、道徳的実践態度も見取る**ことができた。
- 児童が経験していないことについては**自分事として考えづらいものもあった**。
- 教師の指示や発問、切り返しなどをしっかりと**精選しないと時間の確保が難しい**。また、授業がパターン化しないように、吟味が必要。
- 学年によっては、表現することが難しい(児童が意図した発言と教師のとらえのずれ)場合もある。そのため、児童の発言をしっかりと**教師側が把握・認め、課題につなげる**こと。

(3) 道徳的問題場面の提示の工夫

- 事前アンケートにより出てきた実態をもとに、**児童が主体的に考えたい課題を設定**することができた。
- 場面を区切ったり半具体物などを提示**したりすることにより、児童が1つの物事について考えやすくなる工夫ができた
- 紙板書があることで、教師も**児童の話や考えについてじっくりと向き合う**ことができた。また、挿絵は、教材文の中でも児童に考えさせたい場面の絵であるため、発問の際に児童が迷ったときには、考える手がかりとなった。
- 課題について**じっくりと振り返る時間を確保**すること。(教師の指示や発問の精選)
- 低学年は、多面的・多角的に考えさせることが難しかった。少しずつ考えさせるように工夫が必要である。

(4) ワークシートの工夫

- 自分の考えを中心にワークシートに記入したことで、**学習後でも振り返りやすくなった**。
- 書くものを精選**したことで、物事について考え、議論する時間を確保することができた。
- 可視化したことで、**短時間で友達の意見を把握しやすくなった**。(ワークシートの見合いで友達の考えを知る)
- 書くことで自分の考えを整理できるが、話し合いの時間を確保するため、**書かなくても考えを整理して表現**できるようにしていきたい。
- 心のものさしまでは、なかなか時間内におさめることが難しかった。

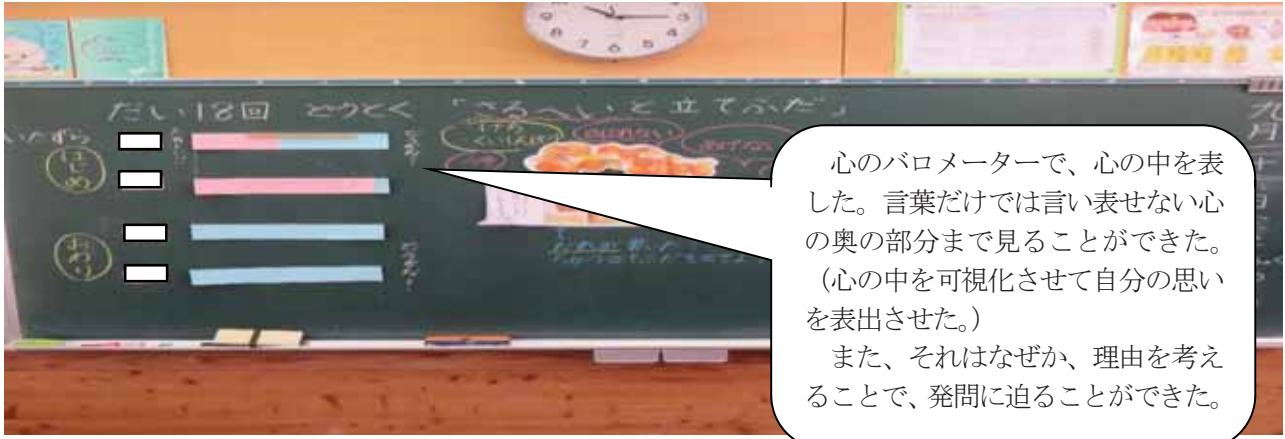
手立て2 道徳的な問題について議論するための手立て

(1) 自分の立場や考えの根拠を示す

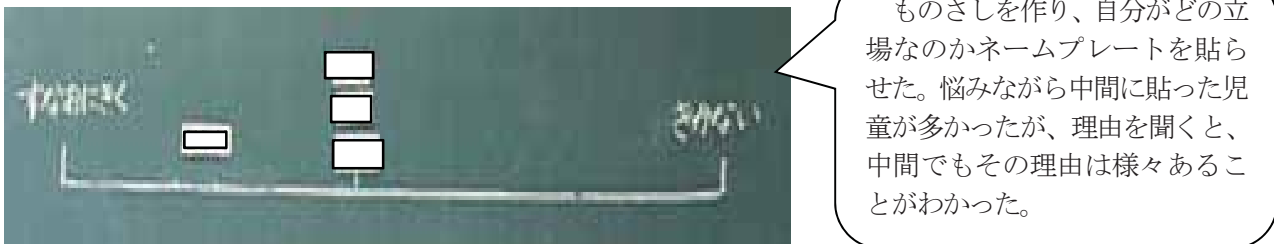
① グループや全体の場での考えの可視化

自分の考えや立場が友達にもわかるように心のバロメーターやネームプレートを使用した。その後、自分の生活や経験から出た考えを根拠にして相手に自分の考えを伝えるような学習活動を行った。また、交流がしやすいように適宜機の配置や交流が深まるような話し合いメンバー（事前アンケートでの実態に合わせて）の構成を工夫した。

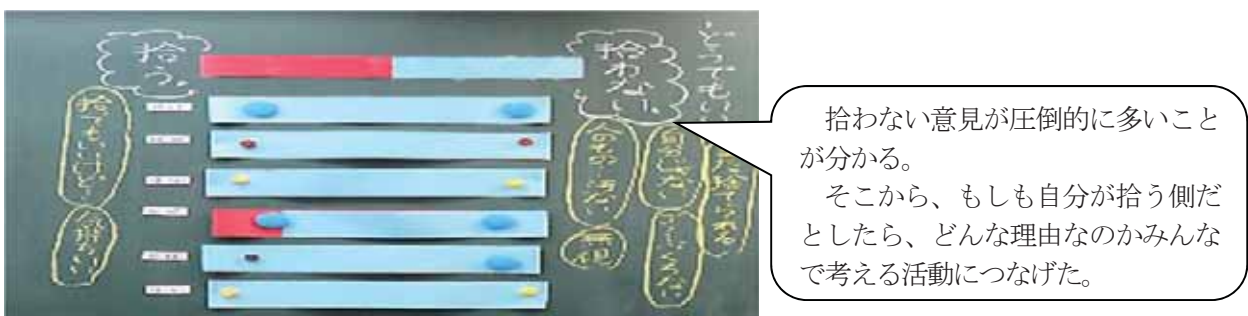
<2学年>



<3・4学年>



<5・6学年>



< 机の配置例 >

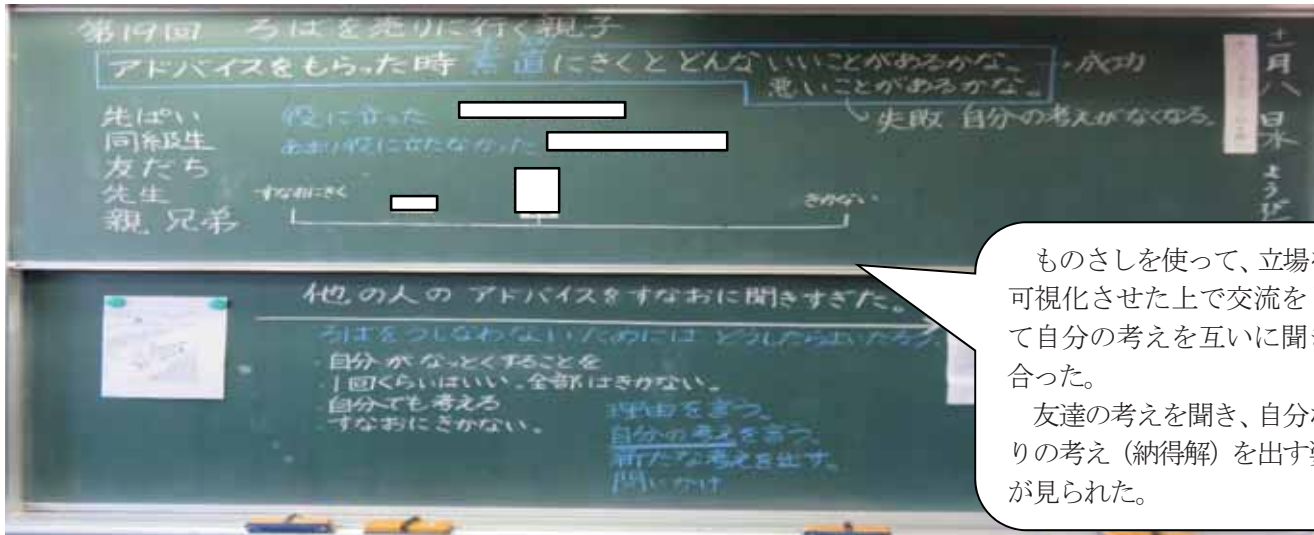


(2) よりよい考えや生き方を見つけるための交流（目的を明らかにする）

① 多面的・多角的に考える交流の設定

1つの事柄（道徳的価値など）に対する考えや登場人物の判断や心情について自分と相手との考えを比べ、多面的・多角的に考えられるような交流の設定をした。根拠を示しながら交流する中で、自分なりの納得解を考えさせた。

<3・4学年>



<5・6学年>

主題名：「努力し続けることで」A-（5）希望と勇気、努力と強い意志

教材名：「夢」

T：関係のない仕事についているのに、さわやかな表情をしているのはどうしてでしょう。

—自分の考えをもとにグループで友達との考えを交流—

C1：野球での思い出があるからさわやかな表情をしている。C2さんは？

C2：でも、野球での思い出って、腰痛めたとか、大変だったとか。それでさわやかになれるとは思わないんだけど。やってよかったってこと？

C1：うん。中学校で頑張ったから、野球選手にはなれなかったけど、いい思い出ができて、さわやか。

C2：なるほどね。C3さんはどう思った？

C3：野球で力になったことを違うことに生かそうと思ったから。

C2：ああ、みんな野球のおかげで前向きになった感じだね。やっぱ、野球やって良かったのかな。野球選手になれなかったけれど、こういう気持ちにさせてくれたから、良かったよね。

C1・C3：うん、そうだね。

グループでの交流後、全体でも交流させたことで、C1の児童が以下のように考えをまとめた。

〈交流前〉野球での思い出があって、さわやかな表情をしている。

多角的な捉えをしていることが分かる。



〈交流後〉野球を通して、思い出だけでなく、いろいろなことを身に付けたんだ。それに、次の目標が見つかったから、さわやかなのかもしれない。

「心に通じた『どうぞ』のひとつこと」B- (7) 親切、思いやり
友達を励ますために送ったメール（言葉のみ）が相手に誤解を与えてしまった場面。

T : みんなは言葉を使えば、相手に思いが伝わるって言ったけど、どうして伝わらなかったのでしょうか。

—自分の考えをもとにグループで友達との考えを交流—

C1 : 励まそうとしていても、言葉だけじゃ注意されているみたいじゃない？

C2 : 「俺がいいパスをまわしたのに、肝心なところで転ぶなんて駄目だな」ってショックだよな。

C1 : 相手を少し褒めてから、言いたいことを言えば伝わりそうだけどね。なんか注意されている一方な感じがするよね。言葉だけじゃ、うまく伝わらないのかな。

C2 : これ、注意が多すぎるよね。たしかに、パスをミスしたのは悪いけどさ・・・励ましにならないよね。

C3 : 直接話せば伝わったんじゃない。表情ってけっこう大切だと思うんだけど。

C2 : ああ、表情って大事だよな。言葉だけだと、励ましていてもうまく伝わらないことがあるし。

グループでの交流後、全体でも交流させたことで、C1の児童が以下のように考えをまとめた。

（交流前）言葉をもう少し優しくしたら伝わったのに。



（交流後）言葉を優しくしたり褒めたりすることも大切だけど、言葉だけじゃなくて表情とか直接会って伝えるとしっかりと相手に伝わると思う。

多面的な捉えをしていることが分かる。

【成果と課題】

成果・・・○ 課題・・・●

（1）自分の立場や考えの根拠を示す

- 心のバロメーターで自分の気持ちを表すことにより、児童の心の中を可視化することができた。
- 考えや立場を明確にしたことで、同じ立場や異なる立場でもその考えの根拠を聞き合い、**多面的・多角的に考える**ことができた。また、自分と違う考えでも良いということを感じることができていた。
- 机や構成メンバーを工夫したことで、**話しやすい距離で自然と交流**することができた。
- 立場は明確になったが、**経験していないことや自己投影しづらいこと**については効果的とはいえない。
- お互いの考えを一度話ただけで「議論」することが初めは難しかった。少しずつやりとりが増えて、議論らしくなってきたが、低学年の児童だけでの議論は高度である。先を見据えて、議論のさせ方の練習を他教科でもする必要がある。

（2）よりよい考えや生き方を見つけるための交流（目的を明らかにする）

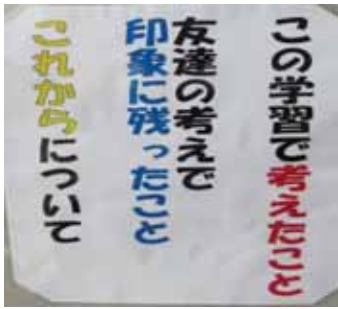
- たくさんの考えが出てくるため、自然と話し合えたり、違う考えにも触れたりすることができた。
- 教師が切り返したり揺さぶったりしたことで、児童が**物事についてさらに考える**ことができた。
- 自分の考えと友達の考えを比べたりして、**物事について多面的・多角的にとらえる**ことができた。
- 元々の自分の立場を変える必要がないことをしっかりと伝えること。（**自分なりに納得した考えを出すこと**）
- 低学年に多面的・多角的に物事を考えさせることは難しかった。二人学級で「色々な考え方」を捉えさせるには、限界がある。二人がお互いの考えを交流するだけで終わってしまったので、教師が様々な考えの例を提示し、「こういう考えをどう思うか。」と問い、考えさせる方法をとってみても良かった。

手立て3 自己を見つめこれからの生き方を考えるための手立て

(1) ふりかえりの工夫

① ふりかえりの視点を明確にする。

ふりかえりの視点を示すことで、授業を通して自分なりの考えを表出する手立てとした。



- 〈ふりかえりの視点〉
- ①今日の学習で考えたこと←道徳的価値についての理解
 - ②友達の考えで印象（心）に残ったこと←多面的・多角的な見方
 - ③これからについて←自己を見つめる

各学年共通のふりかえり

② 課題に立ち返らせたふりかえり

授業を通して、本時の課題について自分なりの考えをまとめるようにした。

<2学年>

「なかまはずれ」について自分なりの考えをまとめる。
C：うさぎさんもおさるさんも、みんなで遊べば良かった。
C：仲間はずれにされた人のことを考えて、みんなが良い気持ちで遊ぶことが大事。

<3・4学年>

「目標に向かって努力すること」について自分なりの考えをまとめる。
C：これからもあきらめないで頑張りたい。特に、漢字チャレンジを頑張りたいです。
C：私も高橋選手みたいにあきらめないで頑張りたい。

<5・6学年>

「困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」について自分なりの考えをまとめる。
C：努力してやり抜くと結果が悪くても違うことに役立つと思った。
C：今まではすごく結果にこだわっていたけれど、この学習を通して結果だけでなく、最後までやり抜くことで次の目標にも生かせると思った。

③ ワークシートのファイル収録による学習状況の把握（指導改善に生かす）

道徳科で書いたワークシートをファイリングして、指導改善に生かした。

※ここでいう指導改善とは、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすための教師側の評価である。

【道徳科】 児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、児童が道徳的価値の理解について自己を見つめながら深く考えられていたかなどを見取る。
→教師の日々の授業の評価、児童の道徳的価値理解の現状を認識することによって、次の授業の指導改善につなげていくための評価である。

指導の評価



道徳科の評価と日々の道徳教育での評価は異なる

【道徳教育】 学年や学期にわたる児童の心の育ちを見取ったことや道徳科で考え議論し、学んだことを日常の道徳的実践（行動）につなげた評価。
→指導要録の行動の記録へ

記録の評価

<2学年>

3 今日のど
とを書きまし

学習前のアンケートで本当の友達とは、「優しく知らないことを教えてくれる人」と考えた児童が、学習を通して多角的な捉え方に発展していることが分かる。

元気で~~は~~ないときや元気が~~な~~ときいろいろな
気持ちもあるけど友だちはたすけあうとかんがえて
それがしほんどのともだちだとおもいました。これから
うれしいことがあってもともだちとたすけあうともだちにしたいです。

<3・4学年>

アドバイスをもらって、~~後~~に立つこと
もあるしたたない時もある。アドバイ
スを聞いて自分の考えと合わせて
みる。

アドバイスをされた時、悩まずにその通りになると考えていた児童が、学習を通して自分で正しいのかどうか判断して行動しようという考えに変容したことが分かる。

<5・6学年>

心のものさし（学習前を赤で、学習後を青で記入）で児童が道徳的価値について自己評価できるようにした。

〈心のものさし〉

学習前

学習後

理由

0 10

今までには、ただ大切だと思っていたけれど、この勉強して、どうして大切か分かることができたので、これからは、結果が悪くても、あきらめないようにしたいです。

(2) 事後アンケートによる児童の変容の見取り

① 事前、事後アンケート（ふりかえり）による変容の見取り

事前アンケートと同じものを採り、道徳的価値についてまとめ、学習前と比べて自分の考えを確認できるようにした。（評価に生かす）

<2学年>

Q：本当の友達とは、どんな友達だと思いますか？

<事前>

C1：優しい友だち。
C2：一緒に遊ぶと楽しい人。

↓

<事後>

C1：良いことも悪いことも言ってくれる人。
C2：楽しいときだけではなく、どんな時でも助けてくれる人。

授業後にアンケートと同じ質問をすると、授業前と授業後で児童の変容がはっきり見られる。

道徳の授業を通して、本当の友達についてよく考え、話し合った成果が見られた。

< 3・4 学年 >

Q: いじめの責任はだれにあると思いますか。(4名で実施:複数回答可)

<事前>	
いじめた人	(4人)
いじめられた人	(1人)
いじめを見ていた人	(3人)
その他	(0人)

↓

<事後>	
いじめた人	(4人)
いじめられた人	(0人)
いじめを見ていた人	(4人)
その他	(0人)

授業後にアンケートと同じ質問をすると、授業前と授業後で児童の変容がはっきり見られる。
いじめを見ていた人(傍観者)にも責任があり、いじめを止めることができるという意識の高まりが見られた。

< 5・6 学年 >

Q. あなたは、これから困難があったとしても、くじけずに努力してやり抜くと思いますか。

<事前> そう思う 2人 どちらかというと思う 4人

- ・あきらめずにやると気持ち良くなる。
- ・やり抜かないと気持ち良くない(モヤモヤする)から。

↓

<事後> そう思う 5人 どちらかというと思う 1人

- ・あきらめずにやれば、自分自身が成長できるから、できる限りやる。
- ・やり抜くことで結果は駄目でも、次の目標が見つかるから。

達成感や気持ちよさなどの情緒面から、本当の意味での努力する良さに関する記述に変化していることが分かる。

主題名: 「男女が理解し合う心」 B- (10) 友情、信頼 教材名: 「心のレシーブ」

<p>男女関係無く、よい人間関係を築いていくためにはどうすればよいと思いますか。</p>	<p style="font-size: 1.2em; color: gray;">分からない。</p>
<p>↓</p>	
<p>男女関係無く、よい人間関係を築いていくためにはどうすればよいと思いますか。</p>	<p style="font-size: 1.2em; color: gray;">おたかひの事をしかりと知る。(話す) 信頼し合う。</p>

授業を通して、どう行動して良いか分からなかった児童が自分なりの納得する答えを導き出している。

【成果と課題】

成果・・・○ 課題・・・●

(1) ふりかえりの工夫

- ふりかえりの視点を示したことで、本時での児童の様子を把握できる。
- 心のものさしによって、道徳的価値についての理解を見取ることができた。(指導の改善に生かす)
- ワークシートをファイリングすることで、学習状況を把握できた。また、児童は**自分の成長を実感**でき、新たな課題や目標を発見することができる。
- ふりかえりについて、ワークシートに書く方法だけにとらわれない。(面接法)
- 心のものさしは、必ずしも変容しなくてもよいことをしっかりと児童に伝えないと、形式的になってしまう。(根拠を大切にす)

(2) 事後アンケートによる児童の変容の見取り

- 事前アンケートと同じ内容を、事後のふりかえりで聞くことで**児童の考えの変容を見取る**ことができた。
- 事前と事後の自分の考えを比べ、確認することで、自己を見つめ自分の変容に気付かせることができた。
- 各学年の重点指導項目について、事後アンケートをもとに学習課題を立てて授業構想することができた。
- 事後アンケートは、授業時間内で採ることは難しい。また、授業後すぐに採らないと、**児童の変容が表出しづらくなる**。同じ質問項目だと比較しやすい反面、児童が「同じ内容になってしまうのですが、良いのですか」と書きにくさを感じてしまった児童も見られた。(必ずしも変容する必要はない)

《連携体制》

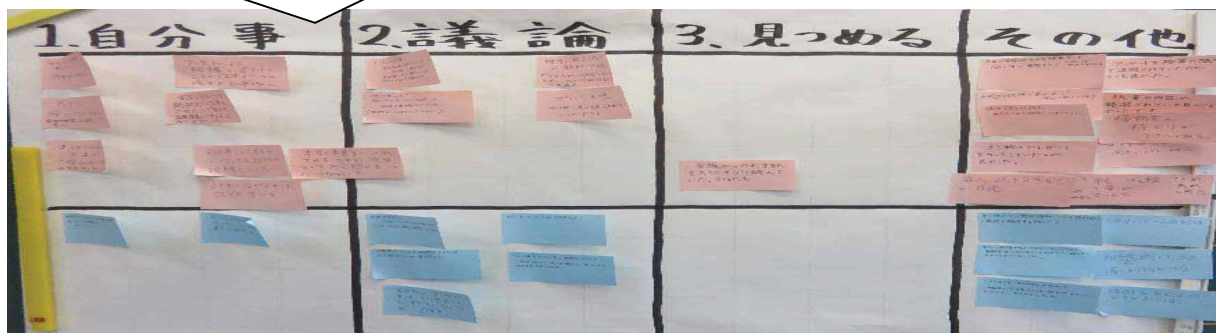
(1) 授業力向上に向けての取り組み

① 授業の見合い及び協議

教師個々の授業力向上に向け日頃から授業実践を見合い、手立て1～3を視点にして放課後に30分程度協議した。



校内研究会では、模造紙を使って手立てごとに協議を行った。



② 参考資料の収集・配付

参考資料を個々が収集し、適宜教職員に配布し共有する場を設けた。(職員会議・校内研究などの活用)

③ 先進校視察研修・伝講による共通理解

道徳科の先進校へ視察研修をし、学んできたことを全教員で共有した。

(2) 地域・家庭等と連携した道徳教育の充実

① 授業参観や面談による道徳教育の実践

年3回ある授業参観日のうち1回を道徳授業参観日として実施して授業参観後の懇談会や個別面談などでの児童の様子を家庭や地域へ情報提供した。



② 地域・家庭の人材の活用

教材によっては家庭に協力をお願いしたりゲストティーチャーを活用したりして、道徳的諸価値の理解を図った。今後、地域の人材を活用して授業を行う予定である。



養護教諭をゲストティーチャーとして活用した。



低学年 D-17 「生命の尊さ」
家族からの手紙を読み、自分の命の大切さを感じていた。

(3) 教育委員会による研究推進への指導と助言

① 外部講師を入れての研究協議

1月22日(水)に行われた平成29年度岩手県授業力向上ブラッシュアップ授業改善研修会に東京都府中市立第三中学校 校長 森岡 耕平先生を招いて、研究協議や「考え、議論する道徳科の授業展開とその評価について」の講演を行った。(研究協議の内容については、資料 2—(3)を参照)

【「考え、議論する道徳科の授業展開とその評価について」の講演内容(資料抜粋)】

6 道徳科の評価

【道徳科における評価の意義】

- (1)道徳教育における評価については、教師が生徒一人一人の人間的な成長を見守り、生徒自身の自己よりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにする。
- (2)道徳教育における評価は、教師と生徒の暖かな人格的な触れ合いに基づいて、共感的に理解されるべきものである。
- (3)道徳科の評価は、指導のねらいとの関わりにおいて、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉え、個々の成長を促すとともに、自らの指導を評価し、改善に活かすものであること。

【道徳科における生徒の学習状況及び成長の様子についての評価】

- (1)数値による評価ではなく、記述式であること。
- (2)個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- (3)他の生徒との比較による相対評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- (4)学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- (5)道徳科の学習活動における生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること。

＜個人内評価と見取り、記述により表現することの基本的な考え方＞

生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

★自分と違う意見を理解しようとしている。★複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている。→発言や感想文、質問紙の記述等から見取るなどの方法

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

★読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。★現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。★道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。★道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている。

(6)評価に当たっては、生徒の感想文をファイルしたり、1回1回の授業の中で全ての生徒について評を意識して変更を見取るのは難しいため、年間35時間の授業という長い時間で見取る工夫が必要である。

(7)道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学選抜の合否判定に活用することのないようにする必要である。

(8)発達障害等のある生徒や海外から帰国した生徒、日本語習得に困難のある生徒等については、それぞれの状況に配慮した指導を行いつつ、その結果として、生徒が多面的・多角的な見方へと発展させていたり、道徳的価値を自分のこととして捕えたりしているかを丁寧に見とる。

(「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成29年7月文部科学省)

よりよい生き方を深く考える道徳科の授業に向けて

1 道徳の時間の指導は心を育む時間になっている？

教科の指導は知らないことを知る喜び(知の獲得)、道徳の時間は知っていることをさらに深く考える喜び(価値の自覚)によって成り立つ。年間35時間の指導はそうなの？

「心が豊かになる」とか「心が育つ」とは**心の働き**が良くなること。

判断力(ある言動のもととなる考え)
心情(美しいものを「美しい」と感じ、まずいことをしたら「いけない」と感じる気持ち)
意欲・態度(「前を向く」とか「向きを変える」など言動の手にある心の構え)

2 道徳の時間の目標をみせている？

(1)現在の道徳の時間の目標は、
 「道徳の時間においては…補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、**道徳的実践力を育成するものとする。**」

(2)改正された道徳科の目標は、

「**特別の教科 道徳**」の目標
 「…よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**」

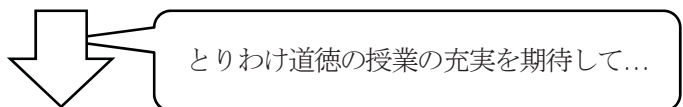
② 指導主事との意見交流

校内研究会では事前検討会から指導主事を入れて行った。また、「特別の教科 道徳」について改定の趣旨や方向性などを聞き、本校の研究推進に役立てた。(校内研究の内容については、資料(2)―①～⑥を参照)

＜指導主事との協議内容の例＞

全国的に、または学校によって、「道徳教育」と「道徳科」の区別が曖昧なまま、授業を行っている現状がある。そのため道徳の研究をするにあたり、4月に「道徳科」と「道徳教育」の違いについて指導主事から指導をいただき、全教員で共通理解を図った。

- 「道徳教育」は、**学校の教育活動全体を通じて児童の道徳性を養うこと。**
 ⇒多様な価値観について、時に対立がある場合を含めて、誠実に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である。(道徳科だけでは難しい)



- 「道徳科」は、**道徳的価値に向かって考えに浸る時間。**心の中を明かすようにする。それをもとに、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えを深める時間。
 ⇒価値のおしつけになったり、先生が「○○しましょう！」など主導で考えたりする時間ではない。道徳科ではいかに、子どもたちが道徳的価値に向かってどう主体的に考えるかが大切!

（１）授業力向上に向けての取り組み

- 互いの授業を見合ったことで、手立て1～3についての工夫を多く共有できた。また、放課後の時間を使って協議を行ったことで、よりよい手立てが精選された。学んだ手立ての工夫を学級の児童に還すこともできた。（授業の質の向上）
- 参考資料や先進校視察してきたことを適宜紹介・共有したことで、道徳の授業改善だけでなく、道徳教育についても教師一人一人の意識が変わった。
- 授業を見合うことで、個々の授業力は向上したが、互いの授業を見るために自分の学級の児童の学習時間や学習活動をしっかりと保障する工夫が必要。

（２）地域・家庭等と連携した道徳教育の充実

- 授業参観で道徳の授業を参観したり、個別面談等で授業の様子を伝えたりしたことで、学校だけでなく、家庭や地域でも実践できるようになってきている。（特に挨拶は自分から進んで行うようになっている）
- 連携して子どもを育てるという意識が以前より高くなってきたように感じる。地域での子どもたちの様子を学校に知らせてくれる方もいた。
- 家庭や地域人材の活用について、どの教材のどの場面が効果的なのか事前に計画を立てて活用していくこと。

（３）教育委員会による研究推進への指導と助言

- これからの道徳について話をお聞きしたことで、全教員が同じ方向を向いて道徳教育の推進にあたることができた。（共有化）
- 普段の授業（道徳）の悩みについて、助言をいただいたことで、よりよい授業をつくることができた。
- 指導助言していただいたことを学校や学級の実態に応じて、吟味していく。（指導助言の内容を極小規模の学校でも効果的にできるように教師が考えることが大切。）

《全体計画・別葉の作成》

(1) 道徳教育全体に関わっての取り組み

① 道徳科の教科化に向けた道徳教育全体計画の見直し

全体計画とは、学校の教育活動全体を通して道徳性を養うねらいから、道徳教育の目標を明確にして、全教職員が共通理解、共通実践できるようにするための指針となるものとする。そのため、本校の実情や児童の実態に即した計画を作成することが重要である。そこで、今年度、学校教育目標が変更されたことや来年度からの道徳が教科化されることを受け、今年度、道徳教育計画の見直しを図った。

学校教育目標

- 1 自ら学び、自ら考え最後までやりぬく子ども (かしこく)
- 2 思いやりの心を持ち、助け合う子ども (やさしく)
- 3 進んで体をきたえ、困難なことものりこえる子ども (たくましく)



道徳教育目標

自らの目標をしっかりと持ち、より良い生活をめざして、友達や他者と関わりながら意欲的に学校生活を送ろうとする豊かな人間性の育成を目指す。

重点目標

- ・自分の考えをもち、主体的に活動する子ども
- ・自他のよさを認め合い、はげまし合う子ども
- ・どんな困難にも諦めず夢や希望を持つ子ども



全学年を通しての重点指導内容 (3ページ参照)

各学年での重点指導内容 (資料1-(2)～(7)参照)



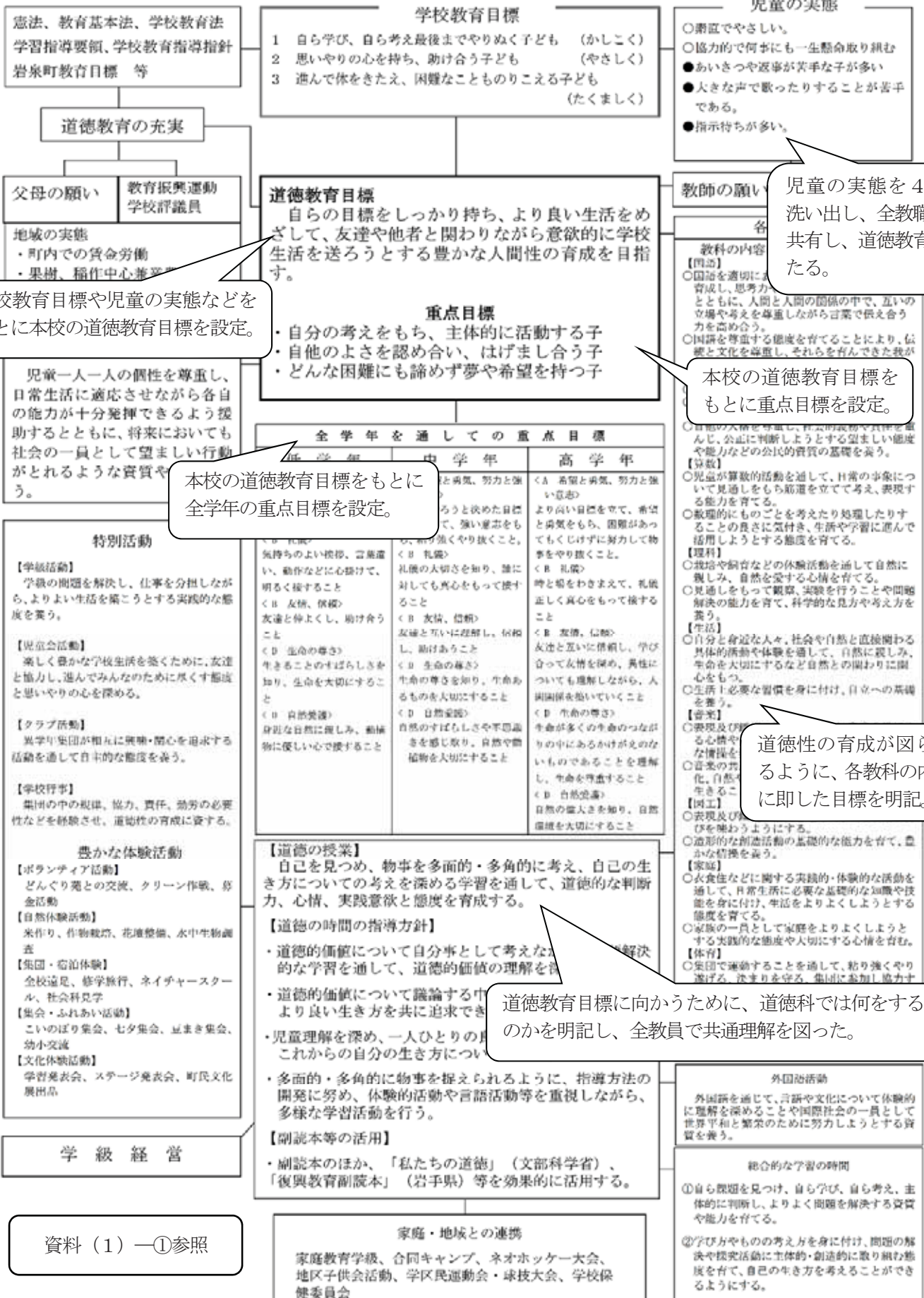
道徳の授業

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。

各教科・領域

各教科や各領域のねらいに即して道徳性を育成する。

道徳教育全体計画



② 別葉を活用して年間を通しての他教科や領域との関連を意識した指導や手立ての工夫

道徳教育は学校の教育活動全体を通して行われるものであるため、道徳科にとどまらず、各教科や領域、特別活動などでも指導の内容や時期を把握する必要がある。そのため、本校の道徳教育全体計画をもとに別葉の修正を行った。修正した別葉をもとに、他教科とのつながりを意識し、学校の教育活動全体を通して道徳教育に取り組んだ。(各学年の別葉は資料1-(1)～(7)参照)

教科他/月	4月	5月	6月
道徳	2「遠足の子どもたち」☆		8「お父さんは救急救命士」☆
☆5年生	価値 A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任	教育活動全体を見通して、どの時期にどの道徳の授業を行えばよりよいか、事前に計画を立てた。(道徳教育の充実) 例：始業式と教材に関連。 各教科と教材に関連。	C-(14)勤労、公共の精神
16	4「オーストラリアで学んだこと」☆		9「かれてしまったヒマワリ」☆
★6年生	価値 B-(9)礼儀		C-(16)よりよい学校生活、集団生活の充実
17	1「心をつなぐ音色」★		9「ピアノの音が……」★
副	価値 A-(5)希望と勇気、努力と強い意志		C-(12)規則の尊重
2			15「タマゾン川」★
計 35	価値		D-(20)自然愛護
学校行事	1学期始業式 A-(3) A-(5) 身体計測 C-(16) D-(19) 交通安全教室 A-(3) D-(19)	遠足 A-(3) B-(9) B-(10) C-(12) C-(15) D-(20) 歯科検診 D-(19) 運動会 B-(10) C-(13) 田植え C-(13) C-(14) C-(17) D-(20)	内科検診 D-(19) 5・6年生宿泊学習 A-(1) B-(9) C-(12) C-(16) D-(20) 避難訓練(地震) A-(3) C-(14) C-(15) D-(19)
特別活動	学級目標や学級組織を作ろう A-(5) B-(11) C-(16) 元気にあいさつしよう B-(9) 安全に登下校しよう A-(3) C-(12) 児童総会 C-(12) C-(16)	学習の準備をしっかりとしよう A-(3) 時間を守って行動しよう A-(3) 山王祭 C-(17)	室内での過ごし方を考えよう A-(3) クリーン作戦 C-(13) C-(14) D-(20)
外国語教育 B-(9) C-(18)	1「Hello.」②	2「I'm happy.」② 3「How many?」④	3「How many?」④ 4「I like apples.」⑤
総合的な学習	※総合的な学習の時間のねらいをふまえ、各学校におけるカリキュラムと道徳の価値項目を適宜関連させて指導する。		
教科	4月	道徳教育の指導内容や時期を明記。	6月
国語	「教えて、あなたのこと」① 「ふるさと」「あめだま」③ B-(7) 「なまえつけてよ」④ B-(7) B-(10) 「漢字の広場」①① 「春の空」② C-(17) D-(20) 「新聞を読もう」③ A-(6) C-(16)	「漢字の成り立ち」② 「見立てる」「生き物は中柱形」⑦ A-(6) D-(20) 「漢字の広場」①① 「古」 「き」 A-(6)	「敬語」② B-(9) 「広がる、つながる、わたしたちの読書」「千年の釘にいどむ」⑤ A-(5) B-(8) D-(21) C-(14) C-(17) 漢字の広場③ ①
社会 C-(17)	1.『わたしたちのくらしと国土』⑩ 予備時間: ② 「オリエンテーション」① ①「日本は世界のどこにあるの」④ C-(18) ②「日本の地形と気候」③ A-(6) D-(20)	1.『オ』 ③ C-(1) 「ま」 A-(4) C-	『食料生産を支える人々』⑥ 予備時間: ② オリエンテーション③ ①「米づくりのさかんな地域」⑨ A-(5) A-(6) C-(14) C-(18) D-(20)
算数 A-(5) A-(6)	1『整数と小数』⑤ 各教科と関連して指導できる内容項目を明記。	2『直方体や立方体の体積』 3『比例』③ 4『小数のかけ算』⑫	5『小数のわり算』⑭ ★「どんな計算になるのかな」①
理科		1『天気の変化』 2『植物の発芽と成長』⑮ A-(6) D-(20)	2『植物の発芽と成長』 3『魚のたんじょう』⑪ D-(19) D-(20) D-(21)

《研究だよりの発行》

(1) 道徳教育や道徳科における共通理解

① 事前研究会や研究授業後での内容などの共有

本校の授業の柱である手立て1～3をもとに、授業について事前検討会を行った時の話題になったことや研究授業での手立ての有効性などを内容に盛り込んで研究だよりにまとめた。研究だよりをもとに、研究の方向性を確認したり、全教員で共有したりできるようにした。(資料2ー(1)～(3)参照)

校内研究だよりのNo.13

平成29年12月4日

文責 研究主任

平成29年11月22日(水) 13時50分～14時35分 第5・6学年 授業者：猪俣 純之
 主題名：「努力し続けることで」 A-(5) 希望と勇氣、努力と強い意志
 資料名：「夢」 出典：東京書籍「明日をめざして」

※平成29年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修会を兼ねて・・・

《子どもの学習の姿勢》

- ・子どもたち一人ひとりが自分の考えをもって話し合いに参加していた。
- ・自分の本音を出しながら、話す姿が見られた。
- ・自分の考えをもとに、友達と議論し自分の考えを広げたり深めたりすることができていた。

《猪俣先生の指導》

- ・アンケートをもとに、できている部分だけでなく、弱さやできない部分について話を聞いて、(自分事として考えられる課題)
- ・資料をもとに、「自分だったらどうするか」考えさせる発問があることで、資料のものが良かった。
- ・児童の考えについて、「似ている人は?」「〇〇と言っているけれど、あなたははどう思う?」など他の考えについて自分ははどう思うのか考えさせていた。

児童の学習の様子や
教師の指導の様子

《成果(O)と課題(●)》

道徳的な問題を「自分事」として捉えるための問題場面や生成の工夫

- アンケートを採ることで、自分事として課題について考えられ、身内内容項目について、今の自分の現状を知ることができる。
 ⇒事前に児童の現状を把握することで、子ども達が今のような時に、必然性があるものになる。(児童の実態に応じた学習課題の提示)
- アンケートの結果を最初全員で確認し、今の自分や友達はどう感じているのか共有できた。
- 「困難」について聞いていたが、「自分にとっての困難は何か」と問いながら、考えさせるとより自分事として考えることができるのではない。
- 内容項目を課題で提示すると、どうしても建前上になってしまうのでは。
 ⇒児童が本音で話せるように、事前アンケートで浮き彫りになったこと(道徳的問題)について内容項目と関係付けて提示すれば必然性も生まれ、本音で話せるようになる。ただ、課題がやや難しくなってしまう、話しづらくなることもあるので、吟味が必要である。

手立て1～3についての
成果と課題

道徳的な問題について議論する場の工夫

- 「自分だったら続けるかどうか」について理由(根拠)をもとに考えさせることができていた。
 さんが言ったことについて、どう思った?」「〇〇さんと似ている考えの人はいる?」など相手を意識させる声をかけていた。
 ⇒自分の考えについて深めたり広げたりするためには有効である。(多面的に考える)
- 主発問についてじっくりと考えて、議論する時間が保障されていた。そのため、課題についても児童が考えることができた。
- 内容項目以外の派生する考えも出てきたのがよかった。その中で、自分の考えをしっかりと持っていた。
- 自分の考えについて、主人公をもとにして考えていたが、「自分は〇〇だから」のように、より自分と関係付けて話せると自分事に深まりが出てきてよかったのではない。
 ⇒自分の経験をもとに話せるものとそうでないものがあるので、しっかりと教師が吟味する必要がある。
- 話し合う中で、自分の考えを変えなくてはいけないのか。
 ⇒自分の考えを必ずしも変える必要はない。自分になかった考えや、聞いたうえで新たに思いついた考えで自分が納得できるのが大切である。(多数決のように決めるのではなく、自分なりの納得)

道徳的価値の理解をもとに自己を見つめ、これからの生き方を考えることができるようになるための指導の工夫

- 終末にもう一度、導入と同じ課題について考えることで、児童の変容を見取るができる。
- ふりかえりの項目が示されており、評価にも生かせるふりかえりがよい。
- 必ずしも自分の考えを変えさせなくてはいけないのか。
 ⇒「より多面的・多角的に捉えていたか」「他の考えを認識していたか」が重要であり、そこを見取る。

その他

- 内容項目をそのまま問うということについて、よさもあると思った。ただ、資料によっては難しいこともある。
- 机の配置が話しやすくよい。(ペア、グループ、全体にする意図をしっかりと教師が持つことが大切)
- アンケートから課題を立て、資料を通して考える場合と、資料を読んだから課題を立てて考える場合とパリエーションがあるとよい。(パターン化しない)
- 本時の主発問は、本当にここでよいのか。
 ⇒課題に迫るところを主発問にすることが大切。そのためには、しっかりと資料分析をする必要がある。

《森岡先生から》

- ・毎回、アンケートを採るのは教師も児童にとっても負担がかかる。やみくもにアンケートを採るのではなく、その目的は何が考えなければいけない。
 ⇒児童には理解の差や経験差がある。道徳科の目標にもある諸価値の理解について児童が今どこにいるのかを把握するためある。それを教師だけでなく児童同士でも共有させることができる。
 また、児童の変容についてもアンケートを採れば把握できるので、毎回ではなく、必要に応じて採ることが望ましい。
- ・本時の主発問はここでよかった。主人公の変容がわかるところが議論しやすい。
- ・主人公が「他からの評価」よりも、「自分への評価」に変わったところをおさえて、(さすががしざ) 評価のふりかえりにもっと時間をかけて、その中で自分だったらどうするか考えさせる方法もあった。

外部講師や指導主事による
指導助言



心のバロメーターによる心の表出

板書や授業の様子
(写真で表示)



板書



《全体計画・別葉の作成》

【成果と課題】

成果・・・○ 課題・・・●

(1) 道徳教育全体に関わっての取り組み

- 学校教育目標と児童の実態から、道徳教育目標を設定した。全体計画にも明記したことで、教育活動全体を通じて二升石の児童の実態を踏まえながら道徳教育を行う意識が高まった。
- 道徳科では何をするのかについても明記し、全教員で道徳教育について共通理解を図ることができた。
- 別葉があることで、道徳科だけでなく、他教科や特別活動の中でも関連させて指導することができた。
- 全体計画や別葉が何のためにあるのかをもう一度確認したり、児童の実態や学習形態によって年度初めに修正したりしていくことが必要。(形だけにならないように適宜活用していく。)

《研究だよりの発行》

【成果と課題】

(1) 道徳教育や道徳科における共通理解

- 研究だよりがあることで、実践記録が残り、今年度の道徳教育はもちろんのこと、次年度の道徳教育に活かすことができる。(共通理解)
- 事前検討会の内容を踏まえた研究授業が行われることで、どのような手立ての工夫をしたのかがわかった。授業を見ていない人でも、研究だよりを見ることで、個々の教師の工夫や思いが分かる。(参考になる。)
- 授業の内容だけでなく、教科化に向けた取り組み例やこれからの道徳教育についてもたくさん発信していきかけた。

1 1. 研究の成果と課題

(1) 成果

- 課題や道徳的問題場面について、手立て1で自分事として捉え、手立て2で多面的・多角的に考えたことで、手立て3のふりかえりで深く自己を見つめることができた。また、それぞれの手立てが有機的に働き、これからの自分（生き方）について深く考えられるようになった。
- 日常での様々な問題場面(トラブル)でも自分たちでどうすれば良いのか話し合っ解決する姿が見られたり、実生活の中でも進んで生かそうとする姿が多く見られたりした。(自分ならどうするか、正しい行動とは何か)
- 自分の意見を堂々と主張するだけでなく、自分と違う意見が出たとしても相手の意見に耳を傾け、自分の考えに取り入れて行動するようになってきた。(折り合いをつけられるようになってきた。)
- 道徳科の充実に向けて積極的に取り組むようになった。また、共通理解を図りながら道徳教育に取り組んだことで、児童は主体的に行動するようになり、学校全体の雰囲気が変わった。

(2) 課題

- 各学年の内容項目を手がかりにして授業構成をしているが、各学年のつながりを意識した授業を行うことは難しい。また、2学年分の教材を使用しているため、類似した内容のものもあり、どこまでその教材で考えさせるか教材分析を今後もしっかり行う必要がある。
- 複式、極小規模での議論について様々な手立てを実践してみたが、人数が少ない学級では多面的・多角的な見方をすることはなかなか難しい。そのため、どう手立てを組み、議論する際には、どのタイミングで介入していくか今後も吟味が必要。(全校道徳などの時間を設定する方法も考えられる)
- 道徳科で考えたことや教育活動全体を通して道徳教育にあたったことで、意識して行動に表れる姿が多く見られるようになったが、学校外やどんな状況においてもできるようにさらに道徳科の主旨に沿った授業をしていきたい。

1 2. 終わりに

これまで、子どもたちが「自己の生き方について考え、友達や他者と関わりながらよりよい生活を送ろうとする」ための手立てを考え、実践を積み重ねてきました。

児童の実態を事前に見取り、その実態に合った学習課題を設定することで、児童は道徳的価値について自分事として考えるだけでなく、学校での様々な諸問題についても自分のこととして考えられるようになってきました。また、友達(他者)と交流する活動を意図的に、効果的に取り入れたことで、一方向だけでなく多面的・多角的な広い視野で物事を考えられるようになってきています。このような道徳科を積み重ねた児童が、今後、様々な状況下でも、そこにある事象をしっかりと見つめ、自分がどうすべきか、何ができるかを判断し、実践できるようになれば願っています。

また、よりよく生きるための基盤となる道徳性を児童が養っていけるように、我々も道徳科を今まで以上に重要視し、今後も授業改善に努めていく必要があります。

今回の研究が、来年度から始まる道徳の教科化に向けて、各学校の実践の一助となり、岩手県の道徳教育の発展へとつながれば幸いです。今後も、引き続き、研究を続けていきたいと思ひます。

道徳教育全体計画



道徳と教科等との関連 小学校 3学年 年間カリキュラム

平成29年度 岩泉町立二井石小学校

各教科の指導計画作成の手引き 及び
道徳テーマ別関連表 をもとに作成

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A-15) 希望と勇氣、努力と強い意志	B-18) 礼儀、慣習	B-19) 礼儀、慣習	D-118) 生命の尊さ	D-119) 自然愛護							

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A-21) 正直、誠実	A-22) 正直、誠実	A-23) 誠意、思いやり	A-24) 思いやり	C-113) 勤労、公共の精神							

教科他/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
☆3年生	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
☆4年生	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
計 35	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
学校行事	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
特別活動	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
総合的な学習	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
数学	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
理科	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
社会	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
国語	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
英語	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
音楽	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
図工	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ
保健	110) 希望と勇氣、努力と強い意志	111) 生命の尊さ	112) 生命の尊さ	113) 生命の尊さ	114) 生命の尊さ	115) 生命の尊さ	116) 生命の尊さ	117) 生命の尊さ	118) 生命の尊さ	119) 生命の尊さ	120) 生命の尊さ	121) 生命の尊さ

道徳と教科等との関連 小学校 6学年 年間カリキュラム

各教科の関連計画作成の手引書 及び
道徳学習一斉別冊道徳をともに作成

全年生を通じた重点指導内容

道徳29年度 若原南校二井石小学校
A-11 希望と成長、努力と達成
B-12 礼儀
B-10 礼儀、感謝
D-10 主体的学習
D-12 主体的学習

高学年の重点指導内容

A-11 希望と成長
C-12 感謝の心
C-14 努力、主体的学習
C-10 主体的学習
C-17 伝統と文化の継承、歴史や文化を学ぶ心
C-18 読書の習慣、読書の楽しさ

教科等/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
道徳	6月25日(水) 道徳の心 6月26日(木) 道徳の心 6月27日(金) 道徳の心 6月28日(土) 道徳の心 6月29日(日) 道徳の心	6月30日(月) 道徳の心 7月1日(火) 道徳の心 7月2日(水) 道徳の心 7月3日(木) 道徳の心 7月4日(金) 道徳の心	7月5日(土) 道徳の心 7月6日(日) 道徳の心 7月7日(月) 道徳の心 7月8日(火) 道徳の心 7月9日(水) 道徳の心	7月10日(木) 道徳の心 7月11日(金) 道徳の心 7月12日(土) 道徳の心 7月13日(日) 道徳の心 7月14日(月) 道徳の心	7月15日(火) 道徳の心 7月16日(水) 道徳の心 7月17日(木) 道徳の心 7月18日(金) 道徳の心 7月19日(土) 道徳の心	7月20日(日) 道徳の心 7月21日(月) 道徳の心 7月22日(火) 道徳の心 7月23日(水) 道徳の心 7月24日(木) 道徳の心	7月25日(金) 道徳の心 7月26日(土) 道徳の心 7月27日(日) 道徳の心 7月28日(月) 道徳の心 7月29日(火) 道徳の心	7月30日(水) 道徳の心 7月31日(木) 道徳の心 8月1日(金) 道徳の心 8月2日(土) 道徳の心 8月3日(日) 道徳の心	8月4日(月) 道徳の心 8月5日(火) 道徳の心 8月6日(水) 道徳の心 8月7日(木) 道徳の心 8月8日(金) 道徳の心	8月9日(土) 道徳の心 8月10日(日) 道徳の心 8月11日(月) 道徳の心 8月12日(火) 道徳の心 8月13日(水) 道徳の心	8月14日(木) 道徳の心 8月15日(金) 道徳の心 8月16日(土) 道徳の心 8月17日(日) 道徳の心 8月18日(月) 道徳の心	8月19日(火) 道徳の心 8月20日(水) 道徳の心 8月21日(木) 道徳の心 8月22日(金) 道徳の心 8月23日(土) 道徳の心	8月24日(日) 道徳の心 8月25日(月) 道徳の心 8月26日(火) 道徳の心 8月27日(水) 道徳の心 8月28日(木) 道徳の心	8月29日(金) 道徳の心 8月30日(土) 道徳の心 8月31日(日) 道徳の心	
国語	4月1日(水) 国語 4月2日(木) 国語 4月3日(金) 国語 4月4日(土) 国語 4月5日(日) 国語	4月6日(月) 国語 4月7日(火) 国語 4月8日(水) 国語 4月9日(木) 国語 4月10日(金) 国語	4月11日(土) 国語 4月12日(日) 国語 4月13日(月) 国語 4月14日(火) 国語 4月15日(水) 国語	4月16日(木) 国語 4月17日(金) 国語 4月18日(土) 国語 4月19日(日) 国語 4月20日(月) 国語	4月21日(火) 国語 4月22日(水) 国語 4月23日(木) 国語 4月24日(金) 国語 4月25日(土) 国語	4月26日(日) 国語 4月27日(月) 国語 4月28日(火) 国語 4月29日(水) 国語 4月30日(木) 国語	4月31日(金) 国語 5月1日(土) 国語 5月2日(日) 国語 5月3日(月) 国語 5月4日(火) 国語	5月5日(水) 国語 5月6日(木) 国語 5月7日(金) 国語 5月8日(土) 国語 5月9日(日) 国語	5月10日(月) 国語 5月11日(火) 国語 5月12日(水) 国語 5月13日(木) 国語 5月14日(金) 国語	5月15日(土) 国語 5月16日(日) 国語 5月17日(月) 国語 5月18日(火) 国語 5月19日(水) 国語	5月20日(木) 国語 5月21日(金) 国語 5月22日(土) 国語 5月23日(日) 国語 5月24日(月) 国語	5月25日(火) 国語 5月26日(水) 国語 5月27日(木) 国語 5月28日(金) 国語 5月29日(土) 国語	5月30日(日) 国語 5月31日(月) 国語 6月1日(火) 国語 6月2日(水) 国語 6月3日(木) 国語	6月4日(金) 国語 6月5日(土) 国語 6月6日(日) 国語 6月7日(月) 国語 6月8日(火) 国語	6月9日(水) 国語 6月10日(木) 国語 6月11日(金) 国語 6月12日(土) 国語 6月13日(日) 国語
算数	4月1日(水) 算数 4月2日(木) 算数 4月3日(金) 算数 4月4日(土) 算数 4月5日(日) 算数	4月6日(月) 算数 4月7日(火) 算数 4月8日(水) 算数 4月9日(木) 算数 4月10日(金) 算数	4月11日(土) 算数 4月12日(日) 算数 4月13日(月) 算数 4月14日(火) 算数 4月15日(水) 算数	4月16日(木) 算数 4月17日(金) 算数 4月18日(土) 算数 4月19日(日) 算数 4月20日(月) 算数	4月21日(火) 算数 4月22日(水) 算数 4月23日(木) 算数 4月24日(金) 算数 4月25日(土) 算数	4月26日(日) 算数 4月27日(月) 算数 4月28日(火) 算数 4月29日(水) 算数 4月30日(木) 算数	4月31日(金) 算数 5月1日(土) 算数 5月2日(日) 算数 5月3日(月) 算数 5月4日(火) 算数	5月5日(水) 算数 5月6日(木) 算数 5月7日(金) 算数 5月8日(土) 算数 5月9日(日) 算数	5月10日(月) 算数 5月11日(火) 算数 5月12日(水) 算数 5月13日(木) 算数 5月14日(金) 算数	5月15日(土) 算数 5月16日(日) 算数 5月17日(月) 算数 5月18日(火) 算数 5月19日(水) 算数	5月20日(木) 算数 5月21日(金) 算数 5月22日(土) 算数 5月23日(日) 算数 5月24日(月) 算数	5月25日(火) 算数 5月26日(水) 算数 5月27日(木) 算数 5月28日(金) 算数 5月29日(土) 算数	5月30日(日) 算数 5月31日(月) 算数 6月1日(火) 算数 6月2日(水) 算数 6月3日(木) 算数	6月4日(金) 算数 6月5日(土) 算数 6月6日(日) 算数 6月7日(月) 算数 6月8日(火) 算数	6月9日(水) 算数 6月10日(木) 算数 6月11日(金) 算数 6月12日(土) 算数 6月13日(日) 算数
理科	4月1日(水) 理科 4月2日(木) 理科 4月3日(金) 理科 4月4日(土) 理科 4月5日(日) 理科	4月6日(月) 理科 4月7日(火) 理科 4月8日(水) 理科 4月9日(木) 理科 4月10日(金) 理科	4月11日(土) 理科 4月12日(日) 理科 4月13日(月) 理科 4月14日(火) 理科 4月15日(水) 理科	4月16日(木) 理科 4月17日(金) 理科 4月18日(土) 理科 4月19日(日) 理科 4月20日(月) 理科	4月21日(火) 理科 4月22日(水) 理科 4月23日(木) 理科 4月24日(金) 理科 4月25日(土) 理科	4月26日(日) 理科 4月27日(月) 理科 4月28日(火) 理科 4月29日(水) 理科 4月30日(木) 理科	4月31日(金) 理科 5月1日(土) 理科 5月2日(日) 理科 5月3日(月) 理科 5月4日(火) 理科	5月5日(水) 理科 5月6日(木) 理科 5月7日(金) 理科 5月8日(土) 理科 5月9日(日) 理科	5月10日(月) 理科 5月11日(火) 理科 5月12日(水) 理科 5月13日(木) 理科 5月14日(金) 理科	5月15日(土) 理科 5月16日(日) 理科 5月17日(月) 理科 5月18日(火) 理科 5月19日(水) 理科	5月20日(木) 理科 5月21日(金) 理科 5月22日(土) 理科 5月23日(日) 理科 5月24日(月) 理科	5月25日(火) 理科 5月26日(水) 理科 5月27日(木) 理科 5月28日(金) 理科 5月29日(土) 理科	5月30日(日) 理科 5月31日(月) 理科 6月1日(火) 理科 6月2日(水) 理科 6月3日(木) 理科	6月4日(金) 理科 6月5日(土) 理科 6月6日(日) 理科 6月7日(月) 理科 6月8日(火) 理科	6月9日(水) 理科 6月10日(木) 理科 6月11日(金) 理科 6月12日(土) 理科 6月13日(日) 理科
社会	4月1日(水) 社会 4月2日(木) 社会 4月3日(金) 社会 4月4日(土) 社会 4月5日(日) 社会	4月6日(月) 社会 4月7日(火) 社会 4月8日(水) 社会 4月9日(木) 社会 4月10日(金) 社会	4月11日(土) 社会 4月12日(日) 社会 4月13日(月) 社会 4月14日(火) 社会 4月15日(水) 社会	4月16日(木) 社会 4月17日(金) 社会 4月18日(土) 社会 4月19日(日) 社会 4月20日(月) 社会	4月21日(火) 社会 4月22日(水) 社会 4月23日(木) 社会 4月24日(金) 社会 4月25日(土) 社会	4月26日(日) 社会 4月27日(月) 社会 4月28日(火) 社会 4月29日(水) 社会 4月30日(木) 社会	4月31日(金) 社会 5月1日(土) 社会 5月2日(日) 社会 5月3日(月) 社会 5月4日(火) 社会	5月5日(水) 社会 5月6日(木) 社会 5月7日(金) 社会 5月8日(土) 社会 5月9日(日) 社会	5月10日(月) 社会 5月11日(火) 社会 5月12日(水) 社会 5月13日(木) 社会 5月14日(金) 社会	5月15日(土) 社会 5月16日(日) 社会 5月17日(月) 社会 5月18日(火) 社会 5月19日(水) 社会	5月20日(木) 社会 5月21日(金) 社会 5月22日(土) 社会 5月23日(日) 社会 5月24日(月) 社会	5月25日(火) 社会 5月26日(水) 社会 5月27日(木) 社会 5月28日(金) 社会 5月29日(土) 社会	5月30日(日) 社会 5月31日(月) 社会 6月1日(火) 社会 6月2日(水) 社会 6月3日(木) 社会	6月4日(金) 社会 6月5日(土) 社会 6月6日(日) 社会 6月7日(月) 社会 6月8日(火) 社会	6月9日(水) 社会 6月10日(木) 社会 6月11日(金) 社会 6月12日(土) 社会 6月13日(日) 社会
総合的な学習の時間	4月1日(水) 総合的な学習の時間 4月2日(木) 総合的な学習の時間 4月3日(金) 総合的な学習の時間 4月4日(土) 総合的な学習の時間 4月5日(日) 総合的な学習の時間	4月6日(月) 総合的な学習の時間 4月7日(火) 総合的な学習の時間 4月8日(水) 総合的な学習の時間 4月9日(木) 総合的な学習の時間 4月10日(金) 総合的な学習の時間	4月11日(土) 総合的な学習の時間 4月12日(日) 総合的な学習の時間 4月13日(月) 総合的な学習の時間 4月14日(火) 総合的な学習の時間 4月15日(水) 総合的な学習の時間	4月16日(木) 総合的な学習の時間 4月17日(金) 総合的な学習の時間 4月18日(土) 総合的な学習の時間 4月19日(日) 総合的な学習の時間 4月20日(月) 総合的な学習の時間	4月21日(火) 総合的な学習の時間 4月22日(水) 総合的な学習の時間 4月23日(木) 総合的な学習の時間 4月24日(金) 総合的な学習の時間 4月25日(土) 総合的な学習の時間	4月26日(日) 総合的な学習の時間 4月27日(月) 総合的な学習の時間 4月28日(火) 総合的な学習の時間 4月29日(水) 総合的な学習の時間 4月30日(木) 総合的な学習の時間	4月31日(金) 総合的な学習の時間 5月1日(土) 総合的な学習の時間 5月2日(日) 総合的な学習の時間 5月3日(月) 総合的な学習の時間 5月4日(火) 総合的な学習の時間	5月5日(水) 総合的な学習の時間 5月6日(木) 総合的な学習の時間 5月7日(金) 総合的な学習の時間 5月8日(土) 総合的な学習の時間 5月9日(日) 総合的な学習の時間	5月10日(月) 総合的な学習の時間 5月11日(火) 総合的な学習の時間 5月12日(水) 総合的な学習の時間 5月13日(木) 総合的な学習の時間 5月14日(金) 総合的な学習の時間	5月15日(土) 総合的な学習の時間 5月16日(日) 総合的な学習の時間 5月17日(月) 総合的な学習の時間 5月18日(火) 総合的な学習の時間 5月19日(水) 総合的な学習の時間	5月20日(木) 総合的な学習の時間 5月21日(金) 総合的な学習の時間 5月22日(土) 総合的な学習の時間 5月23日(日) 総合的な学習の時間 5月24日(月) 総合的な学習の時間	5月25日(火) 総合的な学習の時間 5月26日(水) 総合的な学習の時間 5月27日(木) 総合的な学習の時間 5月28日(金) 総合的な学習の時間 5月29日(土) 総合的な学習の時間	5月30日(日) 総合的な学習の時間 5月31日(月) 総合的な学習の時間 6月1日(火) 総合的な学習の時間 6月2日(水) 総合的な学習の時間 6月3日(木) 総合的な学習の時間	6月4日(金) 総合的な学習の時間 6月5日(土) 総合的な学習の時間 6月6日(日) 総合的な学習の時間 6月7日(月) 総合的な学習の時間 6月8日(火) 総合的な学習の時間	6月9日(水) 総合的な学習の時間 6月10日(木) 総合的な学習の時間 6月11日(金) 総合的な学習の時間 6月12日(土) 総合的な学習の時間 6月13日(日) 総合的な学習の時間

校内研究だより No.4

平成29年6月22日
文責 研究主任

◎7月6日の事前授業研究(道徳)について

日時・場所 平成29年7月6日(木) 13時50分～14時35分 3・4年教室

3・4年

- 1 主題名 「だれかの生活をささげられる人」(B-8 感謝)
- 2 資料名 「朝がくると」 まどみちお (出典:文部科学省 「わたしたちの道徳」)
- 3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容の「B-8 感謝」は、「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を支えてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること」とある。これは、自分の日々の生活は多くの人々の支えがあることを考え、広く人々に尊敬と感謝の念をもつことに関する内容項目である。中学年の段階では、感謝する対象を家族など日ごろ世話になっている身近な人々に加え、日常生活を支えている地域の人々や現在の生活の礎を築いた高齢者などの先輩へと広げるようにすることが求められる。自分たちの安心で安全な生活の実現のために働く人々や、現在の自分たちの生活を築き、大切なものを守り伝えてきたり、発展・向上のために尽力してきたり、努力を重ねてきたりした高齢者などの先輩の存在に気づき、その人々によって生活が支えられていることについて考えを深めさせることが大切である。

(2) 資料について

本資料「朝がくると」は、ある小学生の少年の何気ない朝の行動を綴った詩である。繰り返し出てくる「ぼくが作ったのではない」という言葉が、「では、だれが作ったのだろう」という疑問を読み手に投げかけ、日常の生活を支える人々の多さ、ありがたさを気付かせる内容となっている。後半の「ああ、なんのために」からは、ただその恩恵をあずかるだけではなく、自分も社会に貢献しよう、という内容になっているが、この部分は高学年・中学校の内容項目でもある。授業の前段で、この部分は提示せず、後段において紹介することとする。

4 本時のねらい

日常生活を支えてくれている人々に尊敬と感謝の気持ちをもって生活しようとすることができる。

◎話し合いで話題になったこと

今回は、初めての道徳の校内研究ということもあり、様々な内容での話し合いが行なわれました。そこで、共通理解したいことや確認したいことを中心に書き出しました。

【指導案の形式について】

<主題設定の理由(2) 児童について>

○道徳的価値項目についてのそれぞれ児童の現状も入れる。(どのくらい把握することが道徳では特に大切!)
⇒その一人ひとりについて、どんな手立てをうてほしいかもあると良い。

<4 研究テーマと重点課題にせまるための手立てについて>

○「主題設定の理由(3) 資料について」のあとに、研究テーマと重点課題、せまるための手立てという項目を加える。
⇒この手立てが有効であったが、研究会での視点となる。

<本時の指導(2) 展開について>

○段階については、「気付く→つかむ→深める→広げる→まとめる」の順に構成することを基本とする。
○「気付く」「つかむ」の段階で、道徳的価値にせまるような課題(考えていきたいこと)を設定する。
⇒課題が設定してあれば、児童の発言や1単位時間での自己をふりかえるときにも有効となる。
○主な発問は3つくらいとし、「○」で示す。中心発問については、「◎」で示すようにする。
⇒発問については、児童に問題意識をもたせるようなものにする。
○ふりかえりについては、「①考えたこと ②友達のを考えて印象に残ったこと ③これからどうするか」を基本とする。プラスなことばかりを教師が求めてはいけない。(本音が見えてこなくなる)

段階	学習活動と主な発問(○)	予想される児童の反応	指導上の留意点
		このような囲みを使って課題をかく。	【評価】の項目も入れるようにする。
【例】	○「何が問題になってますか。」 !主発問 ◎「どうすればよいでしょう」 !中心発問	ここには、予想される児童の反応を書き、プラスのことだけでなく、マイナスのことなども書く。	評価は、「気付く」段階での児童の様子と「まとめる」段階でのふりかえりの2つで見取することができる。

【評価について】

○「気付く」段階の子どもらから出てきた反応で、どう変化があったのか評価する。(1時間の中で形成的評価)⇒それを毎回積み重ねることが大切!

【道徳の時間と道徳教育について】

○「道徳の時間」は、道徳的価値に向かって考えに没頭する時間(心情や態度)。児童の心の中を明かすようにする。
⇒価値のおしつけになったり、先生が「〇〇しましょう!」など主導で考えたりする時間ではない。道徳の時間ではないに、子どもたちが道徳的価値に向かって考えるかが大切!無理におとそうとしないでよい。

○「道徳教育」は、道徳の時間以外の学校生活(日常)の中で、「〇〇していこう!」「〇〇しましょう!」など先生主導のこと。

校内研究だより No.5

平成29年6月28日
文責 研究主任

◎7月12日の事前研究(道徳)について

日時・場所 平成29年7月12日(水) 13時50分～14時35分 2年教室

- 1 主題名 「命のありがたさ」D-19生命の尊重
- 2 資料名 「たんじょう日」 (出典:東京書籍「みんな楽しく」)
- 3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

第1学年及び第2学年の内容の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」は、「生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること」とある。これは、生命あるすべてのものをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることに関する内容項目である。この内容項目は、次のように発展していく。低学年の段階においては、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じることを中心とする。例えば、「体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている」「夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる」「おいしく朝食が食べられる」「学校に来てみんな楽しく学習や生活ができる」などが考えられる。指導に当たっては、これらの当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感させたい。また、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いに気づくなど、自分の生命そのもののかけがえのなさに気付くようにすることが大切である。そのことを喜び、すばらしいことと感ずることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが大切である。

(2) 児童について

学校の児童は素直で明るい。女子二人の学級なのでお互い頼りにしあい、助け合って生活している。とても元気で自分の思いを正直に伝えることができる児童たちだが、自己肯定感がとても低い。「私が全部悪い。」「私は何をやってもだめなんだ。」「私は怒られてばかりだから、家族に嫌がられているのかな。」「私は川から流れてきた日だって家族に言われる。」など日常の何気ない言葉から、児童たちの自己肯定感の低さを感じる。また、生活科でミニトマトやさつまいもの栽培活動、かたつむりのお世話を一生涯にやり、植物や動物にも命があることをしっかり理解している。そこで、本時の指導を通して、生命の大切さだけでなく、家族の愛情にも気づき、命の大切さを改めて考えさせたい。

(3) 資料について

本資料は東京書籍、9「たんじょう日」である。誕生日に母親と生まれたころのアルバムを見ていたことが母親の深い愛情によって育てられたことを知る。母親の話を聞いたことは、素晴らしいプレゼントをもらったと思う。母親の愛情を通して、命の尊さに気づき、それを大切にしようという心情を育てていきたい。本時の前に、いもようこ作「しゅくだい」の読み聞かせをする。その後、実際に「家の人になっことしてもらう」という宿題を出す。最近家の人に抱っこしてもらっていないという児童たちに、親のぬくもりを感じさせ、生きていることを感じさせたい。また、家庭の協力を得て名付けの由来や生まれたときの親の気持ちを手紙に書いてもらい、愛情を持って育てている家族の思いにも気づかせたい。

(4) 本校の重点課題

児童が道徳的な課題を「自分事」として捉えるための問題場面の構成の工夫

- ①命の始まりの大きさの提示
- ②お家の人からの手紙
- ③命について考えるための発問の吟味

児童が道徳的な課題について議論する場の工夫

- ④アンケートをもとにした発問の吟味
- ⑤考えを交流しあう場の設定

道徳的価値の理解をもとに自己を見つめ、これからの生き方を考えることができるようになるための指導の工夫

- ⑥ワークシートの活用
- ⑦振り返りの時間の設定

4 本時の指導

- (1) ねらい
命の尊さに気づき、大切にしようとする心情を育てる。

◎話し合いで話題になったこと

【アンケートについて】

○各児童が道徳的価値に対してどういう捉えをしているのか現状が分かるアンケートをとるようにする。⇒実態把握できるとともに、レディネスチェックや評価ができる。

○生命尊重の価値項目であれば、「命って何か」というアンケートもとりたい。「命」については、どの学年も意識して指導していく。

【研究テーマとの関わりについて】

○重点課題の中で、本時で重点的におさえないことについても項目立てて明記する。また、展開のどこで意識してやっているのかについても明記できるとよい。

【本時の指導について】

○項目は、「(2) 評価」「(3) 展開」ではなく、「(2) 展開」「(3) 評価」として明記する。

○資料の読み取り方によっては、「生命尊重」「家族愛」の価値項目になってしまうので、「生命尊重」に迫れるような発問を吟味する。

⇒大切にしてくれた命を自分も大切にしよう!や他の人も自分の命を大切にしているから、命を大切にしよう!などの柱をもつとすれないのでは。

○「死」については重いけど、出すことで「命」についてより捉えられるのでは。

⇒「死」を明示するのではなく、視覚的に訴えるような工夫もあれば、より理解しやすい。

例:何も書かないことで「死」をイメージさせる!

○「命ってなぜ大事なのか」について、児童に考えさせたい。⇒2年生年りの答えでよい。また、この問いについては、その学年でも問いかけていきたい。

○「命」についてはなかなか答えが出てこないが、それについて多面的に多様性をもって考えていくことが大切。

○「生命の尊重」という価値であれば、養護教諭をグスタティーチャーとして活用することもできる。

校内研究だより No.6

平成29年7月11日
文責 研究主任

平成29年7月 6日(水) 13時50分～14時35分 第3・4学年 授業者: 藤山 和香子
主教材: 「だれかの生活をささげられる人」 B・(8) 徳徳
副教材: 「縁がくると」 出典: 文部科学省「わたしたちの道徳」

- 【子どもの学習の姿】**
- 子どもたちが「感謝」について自分なりの意味づけができていた。(導入)
 - 教師からの発問について、一生懸命に考える姿が見られた。
 - 友達への考えにうなづいたり、つぶやいたりする姿が見られた。
- 【藤山先生のご指導】**
- 先生が笑顔で、落ち着いた声で、子どもたち安心して授業を行うことができていた。
 - アンワークを採って、そこから分かる実態や現状をもとに発問がしっかりと考えられていた。
 - 顔マークを用いることで、感謝して聞く時と感謝している時の表情が視覚的に変化していることが分かりやすかった。
 - 道徳的価値について、導入と終末に聞くことで、児童の発問が分かるような工夫があった。

- 【成果(O)と課題(●)】**
- 道徳的な問題を「自分事」として捉えるための問題解決の場面の工夫**
- アンワークを活用し、「感謝」とは何か具体的に感じさせていたのが良かった。
 - ⇒道徳的価値にせまるアンワークの内容を精選し、そこから本時の発問を考えるのも方法の一つである。
 - 「縁がくると」という資料は、普段生活している中で感謝できていない自分と重ねて考えやすいものだった。
 - 「ぼくが作ったものでない」という部分を隠していたことで、児童が道徳的価値に気づきやすい工夫があった。そこから議論する場へとつながるとも良い。
 - 「自分事」と捉える場面はどこだったのか。⇒資料とリンクさせる発問や考える時間を保障する。

- 道徳的な問題について議論する場の工夫**
- 自分の考えを整理するため、自信をもって発表できるようにワークシートを使用していたのが良い。
 - 児童の「普通・・・」というつぶやきを教師がしっかりと拾っていた。そこから、議論させても良い。
 - 議論のさせ方はどうだったか。⇒教師と1対1のようになっているので、ワークシートを交換したり、友達への考えについてどう思ったのか(理由も)考えたりして、交流することもできたのでは？
 - の配慮はどうだったか。⇒どこかみながら相談する時間があれば、より議論できたのでは？
 - 自分の意見と友達の意見を比べて聞く力を育てたい。(育てている途中だと分かるが・・・)

- 道徳的価値の理解をもとに自己を見つめ、これからの生き方を考えることができるようになるための指導の工夫**
- ふりかえりにもう一度、道徳的価値について聞くことで導入と終末において子ども達の考えの発問が分かる。
 - ふりかえりを見る(聞く)と、それぞれに「感謝」がおちていた。
 - 終末はどうだったのか教えてほしい。⇒1単位時間の中でどこに時間をかけるのか考えたい。

- その他**
- 導入での「感謝」とは何かを聞いていたのが良い。⇒現段階での子ども達の価値について教師が把握できる。
 - 資料提示の工夫があり、子ども達が良くうなづいていた。(マーク)
 - 発問の順番はどうか。⇒大切にしたいのは、「感謝を表すには」を最後にしたい。
 - 「感謝って何だろう」の問いはこれで良いか。⇒テーマを掲げて、その中で本時の課題を明示させると良い。
 - 子どもが話した後にほとんどオウム返ししていた。⇒子ども同士の聞く力を育てたい。また、本当に大切にしたいつぶやきのところでオウム返しすると良いのでは？

校内研究だより No.7

平成29年7月20日
文責 研究主任

平成29年7月 12日(水) 13時50分～14時35分 第2学年 授業者: 伊藤 桐子
主教材: 「命のありがたさ」 D・(19) 生命の尊重
副教材: 「たんじょう日」 出典: 東洋館書局「みんななかよし」

- 【子どもの学習の姿】**
- 子どもたちが黙ったり、つぶやいたりなど正面な表情で話す姿が見られた。
 - 資料を提示していきながらも、しっかりと考えて発言ができていた。
 - 1つ1つの発問に集中して考えることができていた。

- 【伊藤先生のご指導】**
- 場面を区切ることで、子ども達は集中でき、着実に価値項目に進んでいた。
 - アンワークをうまく活用し、発問につなげていた。(子ども達にしっかりとおちていた。)
 - 「自分」と「他」を整理させる手立てがよかった。(プリント交換や相手の考えについてどう思ったか聞くなど。)

- 【成果(O)と課題(●)】**
- 道徳的な問題を「自分事」として捉えるための問題解決の場面の工夫**
- アンワークを活用することで、すでに自分事になっていた。(自分がその価値項目についてどう感じているか改めて知る事ができる)
 - ⇒事前に把握することで、子ども達に何を考えさせたいか、学ばせたいのかなど価値項目に沿った発問も的確な事ができる。
 - アンワークの順番を最初に確認したことで、今の自分の考えを整理できたのがよかった。
 - 資料の順番を区切ることで、子ども達が発問についてしっかりと集中して考えることができた。
 - ワークシートに「自分だったら」という発問があり、価値項目が明確に提示されたのが良い。
 - ⇒単なる資料の読み取りではなく、自分事としてどう感じたか考えることが道徳的価値では大切!
 - ここまで考えさせて、どこまで書かせるのか。前半に時間がかかってしまい、後半が交わってしまった。
 - ⇒口頭で考えさせたいものとしてしっかりと自分と向き合せて考えさせたいものを区別して提示する。

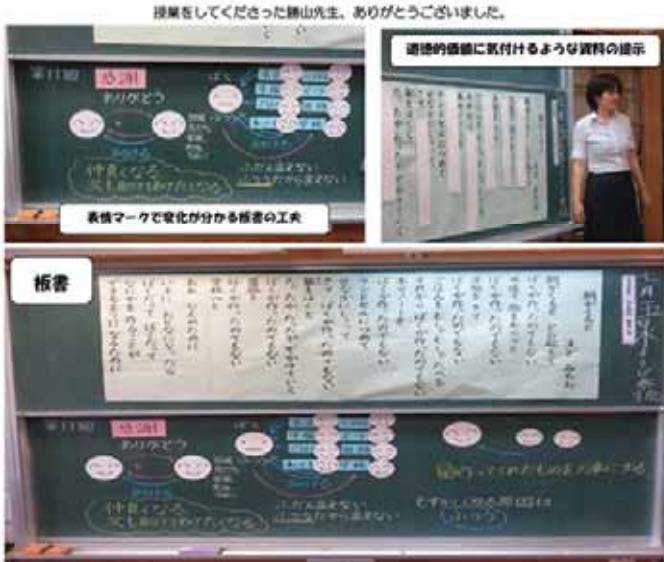
- 道徳的な問題について議論する場の工夫**
- ワークシートを交換させたことで、自分の考えだけでなく、他の考えにも触れることができていた。
 - 考えを深めたいだけだに思っていたために、教師が「OOさんが言っていたことについて、どう思った?」「OOさんと同じなところはある?」など相手と意識させる場をかけたのが良い。(教師と1対1にならない)
 - ⇒低学年から意識させることで、中学年、高学年で自分たちの方で関わり合えるようになる。
 - 現在と過去の描写が混ざっている子どももいた。
 - ⇒吹き出しを使うことで、現在と過去を整理できたかもしれない。
 - 主発問にかける時間が少なかったのでは。
 - ⇒主発問にいくまでにじっくりやるとメインにかける時間がなく、主発問が薄れてしまうので、どこを削ればよいか考える。

- 道徳的価値の理解をもとに自己を見つめ、これからの生き方を考えることができるようになるための指導の工夫**
- 終末にもう一度、導入と同じ質問をすることで、児童の発問がわかった。
 - 家族からの手紙だけでなく、BGMで雰囲気を出すことで、価値項目に迫りやすくなったように感じた。
 - 時間がおちてしまっていたので、しっかりと考えさせるともつと見つめられるのでは。
 - ⇒子どもによっては、ふりかえりに教師が書いてほしいものとしていた。

- その他**
- 板書の内容が精選されていて、子ども達にとって見やすく考えやすいものになっていた。
 - さし絵に合わせた「プレゼント」を意図的に切っていたのが良い。
 - 前の上が合っていて、落ち着いた声で学問できたのがよかった。
 - Aアのワークシート交換の時に、読みづらそう時間がかかっていた。(スムーズな交流ができなかった)
 - ⇒相手を意識して、見やすい文字を書くことを常にどの教科でも意識させたい。
 - いつもより、オウム返しが多かったように感じた。
 - ⇒価値項目にせまれるような発言やつぶやきをした時に、オウム返しをした。常にしてしまうと、流れが切れてしまうこともあるのでは。

(中島先生から)

- 道徳的価値は道徳が派生していくものが多いので、教師が柱をしっかりともち、子ども達にも明確にすることが大切。(道徳の明確性)
- ⇒派生しても良い。道徳はつながっている。つながって話していても良い。(ただし、道徳はぶれないこと)
- 子ども達に投げかけて、しっかりと話し合わせる時間を保障する。(3分間の発表)
- ⇒そこから、考えを深めさせたり切り返したりするには、しっかりと資料研究をすること。
- 子どもの発言が分かるワークシートが役立ったが、考える項目が多かった。
- ⇒発問を減らし、児童が1つ1つじっくり考える時間を設けたい。(主発問は誰か勝手に!)
- 教師がコーディネーター役になると、より議論しやすくなる。(口出しを多くしないこと)
- 道徳的価値は、もっと幅をたせ自由意がある指導を行うようにする。そこに、本音がでてくる。
- 何も「道徳」という言葉がない。⇒どこが道徳なのかひたすら考えさせるのも道徳的価値に向かうための議論として有効になる。
- 道徳的価値については、自分たちで見つけられるような授業を目指したい。
- 9年間子ども達をどう育てていくか。道徳に対してどのような子になればよいか考えること。
- ⇒各学年の目標したい姿を明確にすること。どこまで力をつけさせるか系統立てていくことが大切!



今回の授業研究を通しての一言一言! (明日から取り組みたいこと)

- 児童がじっくり考える時間を確保し、共感しながら進める。一本筋の通った展開を目指す。(伊藤)
- 問題解決的な活動を入れる。(藤山)
- 自由度がある指導の流れと、発問を精選し児童がじっくりと考えられるようにする。(徳島)

(中島先生から)

- 子ども達だけでなく、先生だからこそ議論してほしい。
- ⇒よりよい子どもをつくるために! おしつけではなく、道徳に対して真剣に向き合える授業を!
- 教師はブレないでほしい。しっかりと1本筋の通った授業を推進して行くこと。(スッキリさせる)
- アンワークによって出てきたマイナス面もチャンスとして捉える。それを導入で取り上げても良かった。それそれの立ち位置が分かる上で、授業にその考えを生かすことが重要。
- 資料の与え方が意図的におさえたいことがおさえられていた。(事前準備ができていた)
- 教師の存在がなくなっていた。それが、やがてフリーゾーンになるのが必要な時に介入していくこと。ただし、常に入るデメリットも考えたい。
- 板書の工夫がされてよかった。ただ、「他」というものを板書の真ん中に掲げたかった。それをいろいろのものが取り巻いているという意識をさせてもよかった。(つなげる作業も子ども達と一緒にするとおもしろい。)



今回の授業研究を通しての一言一言! (明日から取り組みたいこと)

- 道徳との結びつきを見極め、より真の深い授業を目指す。(伊藤)
- 子ども同士で議論できるようにする。(藤山)
- 一本筋の通った授業をつくり、いかにコーディネイトしていくか考える。(徳島)

校内研究だより No.12

平成29年10月31日
文責 研究主任

◎11月22日の事前研究(道徳)について
日時・場所 平成29年11月22日(水) 13時50分～14時35分 ホール
1 主語名 「努力し続けること」 A-(5) 希望と勇氣、努力と強い意志
2 資料名 「夢」 (出典:東京書籍「明日をめざして」)
3 主語設定の理由
(1) 道徳的価値について
第5学年及び第6学年の内容の「A 主として自分自身に関すること」の「希望と勇氣、努力と強い意志」には、「より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」とある。これは、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。
自分自身を高め、よりよく生きるためには、夢や目標などをもち、その実現に向けて努力することが大切である。そのためには、自分に合った目標を設定し、その達成に向けて最大限の力を発揮して努力することとどんな困難にぶつかってもやり抜く強さが求められる。夢や目標があることで、様々な困難や失敗があっても、希望と勇氣を持って諦めずに努力することができる。これは、自分自身を高めるだけでなく、前向きに生きていくことにもつながる。こうした行動により、より高い夢や目標が現れ、その実現に向けてさらに努力するというスパイラル状に自分自身が高まっていく。そうした中で、努力する良さやその大切さに気付く、自分自身が成長していることを実感できれば、自分自身を高め、よりよく生きていくことができる。

(2) 児童について
男女問わず、何事も一生懸命に行うクラスである。水泳大会、陸上記録会、町内ロードレース大会、学習発表会などの行事では、1人ひとりが目標をもって自ら進んで練習に励む姿が見られた。その一方で、少しでも辛くなったりすると手を引いてしまったりする児童もいる。また、目標を達成したことで満足してしまい、そこからさらに上の目標を持ってより頑張ろうとする児童は少ない。
そこで、より高い目標に向かって努力し続けることがなぜ大切なのか考えさせることを通して、努力する良さやその大切さに気付かせ、どんな困難があっても努力し続けようとする態度を育てたい。

(3) 資料について
主人公は小さい時から、ずっとプロ野球選手になることが夢だった。その夢を叶えるために、小学校時代は誰よりも多く練習に励む。中学校時代では、名門チームに入り、自分のできる限りの力を出して練習に励むが、それでも厳しい声が飛んでくる。仲間も次々に辞めていき、苦しく辛い練習の日々を過ごす。それでも、頑張り抜いた主人公は、甲子園出場を目指す高校へと進学する。ところが、ある日、腰の痛みに襲われて、練習ができなくなってしまい、自分は何をしているんだと自問自答を繰り返す日々を過ごす。そんな時、今までの頑張り思い出し、誰もいない仕事でも、自分にできる限りの力を出して行く。腰の状態も徐々によくなり、新聞にまで取り上げられることもあった主人公は、最後と決めた入団テストで持てる力を全て出すが、結果はダメだった。その結果に、主人公は大きく息を吐き、力強く何度もうなづく。その中で、主人公はすがすがしさを感ずる。その後、主人公は野球とは全く関係ない仕事に就くが、今まで頑張ってきたことが今の自分に生きていくと感ずる。夢があることで、自分自身が成長できたことや新たな夢につながることに気付くという内容である。

本資料を通して、目標や夢を叶えるために様々な壁にぶつかるが、それでも、自分の立てた目標や夢にむかってひたすら努力しやり抜く高揚らしきや喜び、諦めずに努力したことの結果だけではない。色々なものを得ていることに気付くことができる。
そこで、本資料をもとに自分自身と重ねて考えさせることで、夢や目標に向かって努力しやり抜くことの大切さに気付かせたい。

◎話し合いで話題になったこと
【アンケートについて】
○どういった問いをされているか。
⇒5・6年生で理解させたい内容項目に迫るために、導入で提示している。その際に、児童の実態に応じた課題を立てるようにしている。
○児童の弱みを明らかにしたアンケートをとりたい。
⇒プラス面のことは十分に質問に盛り込むのではなく、児童のこれまでの経験の中での「弱み」を明らかにすることで、本音で話し、考えるようになる。
○アンケートは二度も採っていいか。
⇒児童は日々変容しているため、その都度のアンケートでも良い。
【本時の指導について】
○本時は「心積」ではなく、なぜ「心積」なのか、意図はあるか。
⇒アンケートの結果を見ると、「心積」はすでに育っているため、それがなかなかできない「心積」を本時で指導していきたい。
○より高い目標について同じものさらに上の目標というものでなく、「〇〇ができたから、次は△△にも挑戦したい」というものもより高い目標といえるのではないか。
○心のバロメーターや心のものさしがあることで、一人ひとりの心のゆがみ、共有できる。
⇒立場は同じでも、その程度や理由は人によって異なるので、そこから議論が始まることもある。
○課題が内容項目になってしまうと、指導の幅がせまくなったり、児童の実態と合わないのでは、内容項目よりもっと児童の実態に迫るほうがよいのでは。
⇒児童のマイナスの部分を出させることで、建前ではなく本音で考えることにもつながる。くじけてしまった自分を出させた上で、内容項目の文書が本当に大切なか迫ることができる。(資料ともリンクする)
そのためには、アンケートでもマイナス部分や弱い自分を出させるような項目を設ける。
○児童が本音で、自分事として捉えられる場面はどこか。(主発問はどこか)
⇒自分たちの弱さに関連付けて、考えられるところがよい。(想像ではなく、根拠をもって)

校内研究だより No.13

平成29年12月4日
文責 研究主任

平成29年11月22日(水) 13時50分～14時35分 第5・6学年 授業者:橋本 裕之
主語名:「努力し続けること」 A-(5) 希望と勇氣、努力と強い意志
資料名:「夢」 出典:東京書籍「明日をめざして」
※平成29年度「授業力ブラッシュアップ事業」授業改善研修会を兼ねて・・・
(子どもの学習の姿勢)
・子どもたち一人ひとりが自分の考えをもって話し合いに参加していた。
・自分の本音を出しながら、話す姿が見られた。
・自分の考えをもとに、友達と議論し自分の考えを広げたり深めたりすることができていた。
【指導先生の指導】
・アンケートをもとに、できている部分だけでなく、弱さやできない部分についても把握し、学習課題へとつなげていた。(自分事として考えられる課題)
・資料をもとに、「自分だったらどうするか」考えさせる発問があることで、資料の読みとりに共感していないのが良かった。
・児童の考えについて、「取っている人は?」「〇〇と言っているけれど、あなたはどう思う?」など他の考えについて自分はどう思うのか考えさせていた。
【成果(○)と課題(●)】
道徳的な課題を「自分事」として捉えるための問題解決の場面の工夫
○アンケートを採ることで、自分事として課題について考えられるようになっていた。教師だけでなく、児童自身も内容項目について、今の自分の現状を知ることができる。
⇒事前に児童の現状を把握することで、子ども達がどのような状態なのか分かった。本時の学習課題を立てる時に、必然性があるものになる。(児童の実態に応じた学習課題の提示)
○アンケートの結果を最初に全員で確認し、今の自分や友達がどう感じているのか共有できた。
●「困難」について聞いていたが、「自分にとっての困難は何か」と問いつつ、考えさせるとより自分事として考えることができるのではないかと。
●内容項目を課題で提示すると、どうしても建前になってしまうのでは。
⇒児童が本音で話せるように、事前アンケートで浮き彫りになったこと(道徳的問題)について内容項目と関係付けて提示すれば必然性も生まれ、本音で話せるようになる。ただ、課題がやや難しくなってしまう、話しづらくなることもあるので、吟味が必要である。
道徳的な課題について議論する場の工夫
○「自分だったら続けるかどうか」について理由(根拠)をもとに考えさせることができていた。教師が「〇〇さんが言っていたことについて、どう思った?」「〇〇さんと似ている考えの人はいる?」など相手を意識させる声をかけていた。
⇒自分の考えについて深めたり広げたりするためには有効である。(多面的に考える)
○主発問についてしっかりと考えて、議論する時間が保障されていた。そのため、課題についても児童が考えることができた。
○内容項目以外の派生する考えも出てきたのがよかった。その中で、自分の考えをしっかりと持っていた。
●自分の考えについて、主人公をもとにして考えていたが、「自分は〇〇だから」のように、より自分と関係付けて話せると自分事に深まりが出てきてよかったのではないかと。
⇒自分の経験をもとに話せるものではないものがあるため、しっかりと教師が吟味する必要がある。
●話し合いの中で、自分の考えを変えなくてはならないのか。
⇒自分の考えを必ずしも変える必要はない。自分になかった考えや、聞いたうえで新たに思いついた考えで自分が納得できるのが大切である。(多数決のように決めるのではなく、自分なりの納得解)
道徳的価値の理解をもとに自己を見つめ、これからの生き方考えることができるようにするための指導の工夫
○結果ももう一度、導入と同じ課題について考えることで、児童の発言を見取ることができた。
○ふりかえりの項目が示されており、評価にも生かせるふりかえりがよい。
●必ずしも自分の考えを発言させなくてもいいのではないかと。
⇒「より多面的・多角的に捉えていたか」「他の考えを認識していたか」が重要であり、そこを見取る。

【内容項目】
○内容項目をそのまま質問ということについて、よさもあると思う。ただ、資料によって話したいところもある。○組の児童が話しやすくてよい。(「へア、グループ、全体にする意思をしっかりと教師が持つことが大切)
●アンケートから課題を立て、資料を通して考えさせる場合と、資料を読んでから課題を立てて考える場合とパリエーションがあるといい。(グループ内はいい)
●本時の主発問は、本当にここでよいのか。
⇒課題に迫るところを主発問にすることが大切。そのためには、しっかりと資料分析をする必要がある。

【指導先生から】
・毎回、アンケートを採るのは教師も児童にとっても負担がかかる。やむを得ずアンケートを採るのではなく、その目的は何が考えなければいけない。
⇒児童には理解の差や経験差がある。道徳的価値にもある道徳的価値について児童が今どこにいるのかを把握するためである。それを教師だけでなく児童同士でも共有させることができる。
また、児童の発言についてもアンケートを採れば把握できるので、毎回ではなく、必要に応じて採ることが望ましい。
・本時の主発問はここでよかった。主人公の発言がわかるところが議論しやすい。
・主人公が「他からの評価」よりも、「自分への評価」に変わったところをおさえて、(すがすがしき)
・資料の読み込みもちゃんと時間をかけて、その中で自分だったらどうするか考えさせる方法もあった。

授業をしてくださった橋本先生、ありがとうございました。



「特別の教科 道徳(道徳科)」の内容項目の一覧

	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)	小学校第5学年及び第6学年(22)	中学校(22)	キーワード
A 主として自身自身に関すること	善悪の判断、自律、自由と責任	(1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。 (2) 善しは善直に改め、正直に問わないで生活すること。	(1) 自由を大切にし、自律的に行動し、責任のある行動をすること。 (2) 誠実に、勇気を持って生活すること。	(1) 自身の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
	正直、誠実	(2) うそをついたり、ごまかしたりしないので、素直に物言ひをし生活すること。 (3) 健康や安全を気をつけ、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがまをしないので、規則正しい生活すること。	(3) 安全を気をつけることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、前向きに取り組むこと。 (4) 自分の健康を知って、知所を改め長所を伸ばすこと。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、前向きに取り組むこと。安全で調和のある生活すること。 (3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	態度、節制
	個性の伸長	(4) 自分の特徴に気づくこと。 (5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(4) 自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。 (5) 高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があっても決してけずけず努力して物事をやり抜くこと。	(4) 高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実に成功させること。	向上心、個性の伸長 希望と勇気、克己と強い意志
	希望と勇気、努力と強い意志	(5) 自分ややるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。 (6) 友達と仲良く、助け合うこと。	(6) 友達と互いに信頼し、信頼し、助け合うこと。 (7) 誰にたいへん困難に、人間関係を築いていくこと。	(5) 真実を大切にし、真実を探究して新しいものを生み出す努力すること。	真実の探究、創造
	真実の探究	(6) 友達と仲良く、助け合うこと。 (7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。 (8) 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	(7) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。 (8) 日々の生活が家族や身近な人々の支えや助けのおかげで成り立っていることに感謝し、それに応えること。 (9) 時と場合をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(6) 思いやりのある心をもって人と接すること。多岐の人々の善意と自分自身の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を養うこと。 (7) 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をすること。	思いやり、感謝 礼儀
	友情、信頼	(9) 友達と互いに信頼し、信頼し、助け合うこと。 (10) 自分の考えや意見を相手に伝えることには、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	(10) 友達と互いに信頼し、信頼し、助け合うこと。 (11) 自分の考えや意見を相手に伝えることには、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	(8) 友情の心をもち、互いに助け合うこと。多岐の人々の善意と自分自身の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間関係を築いていくこと。 (9) 自分の考えや意見を相手に伝えることには、相手の個性や価値を尊重し、互いに助け合うこと。自分や自分と異なる意見も大切にすること。	友情、信頼 相互理解、寛容
	相互理解、寛容	(10) 友達と互いに信頼し、信頼し、助け合うこと。 (11) 相手の考えや意見を相手に伝えることには、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	(11) 相手の考えや意見を相手に伝えることには、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。 (12) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。 (13) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。 (14) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。	(10) 法やまじの意義を理解し、それを守ること。その上、思いやりを持って考え、自己の権利を大切に、義務を果たすこと。規則があり、規則があることは社会の発展に努めること。 (11) 正義と公正を重んじ、誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。正義の心で社会の発展に努めること。 (12) 社会参画の意義と社会参画の意義を高め、公共の精神をもってよい社会の発展に努めること。	違法精神、公徳心 公正、公平、社会正義
	公正、公平、社会正義	(11) 自分の好き嫌いをとらわれないで接すること。 (12) 働くことの大切さを知り、みんなのために働くこと。 (13) 働くことの大切さを知り、みんなのために働くこと。	(12) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。 (13) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。 (14) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。	(13) 勤労の意義や意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。 (14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	勤労 社会参画、公共の精神
	勤労、公共の精神	(12) 働くことの大切さを知り、みんなのために働くこと。 (13) 働くことの大切さを知り、みんなのために働くこと。	(13) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。 (14) 誰にたいへん困難に、互いに助け合うこと。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学校や学校の一員としての自覚を持ち、協力し合ってよい学校をつくらせるとともに、様々な集団の意義や集団の中で自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実にも努めること。 (16) 誰の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や風俗習性を愛し、進んで郷土の発展に努めること。 (17) 誰の伝統と文化を大切に、文化の創造に貢献すること。日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成に努めること。	家族愛、家庭生活の充実 よりよい学校生活、集団生活の充実 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
	家族愛、家庭生活の充実	(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをさせて、家族の役に立つこと。 (14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学校や学校の生活を楽しむこと。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなが協力し合って楽しい家庭をつくること。 (15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って楽しい学校や学校をつくること。	(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合ってよい学校や学校をつくらせるとともに、様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実にも努めること。 (17) 誰の伝統と文化を大切に、文化の創造に貢献すること。日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成に努めること。	国際理解、国際貢献
国際理解、国際貢献	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。 (17) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しむこと。 (18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際貢献に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立ち、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解、国際貢献	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さ	(17) 生きることの大切さを知り、生命を大切にすること。 (18) 身近な自然に親しみ、動植物に思いやりを持って接すること。	(19) 生命が多岐の生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。 (20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。 (20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすること。理解し、進んで自然の愛護に努めること。	生命の尊さ 自然愛護
	自然愛護	(18) 身近な自然に親しみ、動植物に思いやりを持って接すること。 (19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。 (21) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間に対して生きる喜びを感じること。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間にたいへん自然の崇高さや偉大さを尊重すること。人間には自然の崇高さや偉大さを克服する勇気や気風が生きていくべきこと。	感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び
	感動、畏敬の念	(19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。 (20) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間に対して生きる喜びを感じること。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間に対して生きる喜びを感じること。 (22) よりよく生きる勇気や気風を尊重し、人間として生きる喜びを感じること。	(22) よりよく生きる勇気や気風を尊重し、人間として生きる喜びを感じること。	感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び
	よりよく生きる喜び	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間に対して生きる喜びを感じること。 (21) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間に対して生きる喜びを感じること。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間に対して生きる喜びを感じること。 (22) よりよく生きる勇気や気風を尊重し、人間として生きる喜びを感じること。	(22) よりよく生きる勇気や気風を尊重し、人間として生きる喜びを感じること。	感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び